

モーセ1,,高価なる真珠 モーセの書 第1章

モーセ1,*-,第1章 モーセの見たる示現

モーセ1,*-,1,1830年6月に予言者ジョセフ・スミスに啓示されしまを誌す。

モーセ1,1,モーセある時いと高き山の中に捉えられ行きしが、その時彼に語りたまひし神の言。

モーセ1,2,モーセ神と顔を合わせ相見、神と相語りけるが、神の栄光モーセの上にありき。これを以てモーセ神の御前に在るに耐え得たり。

モーセ1,3,神、モーセに語りて言いたまえり。見よ、われは全能の種なる神にして永劫とはわが名なり。われは寿命の始めなくすなわち齡の終りなければなり。誠にこれ永劫にあらずや。

モーセ1,4,見よ、汝はわが子なり。これを以て汝を見よ、さらばわれ汝にわが手に成る工を示さん。されどすべてにはあらず。わが手に成る工は限りなければなり。わが言もまた然り、そはわが言は決して止むことなければなり。

モーセ1,5,これを以て、人びともことごとくわが手に成る工を見得る者なし、ただわが栄光をすべて見る者のみこれを見る。而して、何人もわが栄光をすべて見得たる後、この世に肉親をもてそのまま在る者なし。

モーセ1,6,わが子モーセよ、われ汝に為さすむる1つの業あり。而して汝はわが生みたる独子の生写しなり。わが生みたる独子は今も将来も救い主とならん。そは彼は恩恵と真理に充てる者なればなり。されどわれより高き神なくよろずのものわれと共に在り。そはわれよろずのも

モーセ1,6-1,ことごとく知ればなり。

モーセ1,7,さて見よ、わが子モーセよ。われこの1事を汝に示す。そは汝この世に在れば、今やわれ汝にそれを示すなり。

モーセ1,8,すなわち、モーセは目をあげて彼の創られしこの世を見たり。モーセこの世と、創らるるすべての人の子らと嘗て創られしすべての人の子らとを御手、これらのことをいたく驚く怪しめり。

モーセ1,9,而して、神モーセを去りて上りたまひしかば、神の栄光今やモーセの上にあらざりき。モーセは独り残されたり。而してモーセ独り残されし時彼は地に倒れたり。

モーセ1,10,多くの時を経て、モーセ初めて人心地つき誠に元の力を戻しけるが、独りごとを言いけるは、さてこれを以てわれ知る、人は物の数にもあらざるを。この事を嘗てわれ考えたこともなかりき。

モーセ1,11,されど、今やわれこの目を以て神を見奉りき。されど、肉眼にてはあらず靈眼を以て見奉りたるなり。何となればわれ肉眼にて見奉り得る筈なかりし故なり。そは、神の御前に於てはわれ枯れ萎みて死にしならんためなり。されど、神の栄光わが上にありて、われ御顔を

モーセ1,11-1,これ神の御前に於て、わが身に变りし故を以てなり。

モーセ1,12,さて、モーセこれらの言を語りたりし時、見よサタン来りて彼を誘惑し言いけるは、人の子モーセよ、われを礼拝せよと。

モーセ1,13,モーセ、サタンを打ち眺めて言いけるは、汝は誰なりや、見よ、われは神の独子の生写しなる1人の神の子なり。われ汝を礼拝すべきその栄光いずこにありや。

モーセ1,14,見よ、われは神の栄光わが身に及び、御前に於て力添えらるるにあらざれば神を拝し奉るを得ざりしに、われは汝を肉身のままにて見るを得。まことに然らずや。

モーセ1,15,わが神の御名に祝福あれ。そは、神の”みたま”ことごとくはわが身より上りたまわざればなり。神の栄光なくんば、汝の栄光何所にありや。そはわれにとりて暗黒なればなり。われは汝と神を区別するを得。神は、われに神を礼拝せよ、而してこの神にのみ仕うべしと

モーセ1,15-1,たればなり。

モーセ1,16,汝、退け。サタンよ、われを欺かざれ。神われに汝はわが生みたる独子の生写しなりと宣いたればなり。

モーセ1,17,神はまた、かの燃ゆる棘の中よりわれを呼びたまひし時、誠命を与えて宣えけるは、わが生みたる独子の名によりて神を呼びてわれを礼拝せよ、と。

モーセ1,18,モーセ再び言いけるは、われは神を呼ぶことを止めじ。われは神に尋ねる他のことあり。神の栄光わが身の上に下りたまひたれば、この故にわれ神と汝を区別するを得。サタンよ、退け。

モーセ1,19,さて、モーセこれらの言を語りたりし時、サタン大いなる声を挙げて叫び、地の面を劈きて命じ言いけるは、われこそは独子なり、われを礼拝せよ、と。

モーセ1,20,この時モーセは極めて恐れ出でけるが、恐れ出でたる時に地獄の惨苦を目にしたり。されども、神を呼びし故に力を与えられて命じ言いけるは、サタンよ、退け。この唯一の神のみをわれ礼拝せんと欲す、こは栄光の神にましますなり、と。

モーセ1,21,今や、サタンおののき出でて地は揺れ動きぬ。然るにモーセ力を与えられ神を呼びて言いけるは、独子の御名によりて言う、サタンよ退け、と。

モーセ1,22,サタン大声を挙げて叫び、涙を流し、泣きわめき、齒がみして誠にモーセの前より立ち去り行きしかば、その姿彼に見えずなりぬ。

モーセ1,23,さて、このことに就きてモーセ証をなしたりしが、罪惡のため人の子らの中にこれを知る者なし。
モーセ1,24,サタン、モーセの前より立去りたりし時、モーセその目を天に向け、父と子の証をなしたもう聖靈に満されて、
モーセ1,25,神の御名を呼び求めしに、再び神の栄光を見たりき。そは神の栄光彼の上に在りたればなり。而して1つの声ありて彼に語るを聞けり。曰く、祝福なるかを汝モーセよ、そは全能の神なるわれ汝を選びたればなり。而して汝は多くの海よりも強くせられん。そは海も汝が
モーセ1,25-1,如くその命に従えばなり。
モーセ1,26,見よ、われは汝と共にあり。すなわち汝の命数属くる日まで共にあり。汝はわが民、すなわちわが選民なるイスラエル人を束縛より解き放つべければなり。
モーセ1,27,その声いまだ耳にある中に、モーセその目を放ちてこの世を見たり。すなわちこの世にあるすべてのものを見たり。彼の見ざりしもの塵1つなかりき。彼はそれを神の”みたま”にて見極めたるなり。
モーセ1,28,モーセ、またこの世に住める人々を見たり。彼の見ざりし者1人も残ることなし。而して、彼は人々を神の”みたま”によりて見極めたるなり。その数はいと多くして実に浜の砂の数え切れぬ如く多かりき。
モーセ1,29,モーセまた多くの土地を見たり。その1つ1つは陸と呼ばれ、その陸の面にはそこに住む人々ありき。
モーセ1,30,モーセ神を呼びて言いけるは、願わくは語りたまえ。何故にこれらのことかくのごときや。神は何をもてこれらのものを造りたまひしや。
モーセ1,31,見よ、主の栄光モーセの上にありければ、モーセ神の御前に立ちて神と顔を合せて物言いたり。主なる神モーセに宣いけるは、われ自らの目的ありてこれらのものを造りたり。ここにわが智慧ありて、われと共に存す。
モーセ1,32,われわが力の言によりてこれらのものを創りたり。そのわが力の言とは、わが生みたる独子のことにして恩恵と真理とに満てる者なり。
モーセ1,33,われは、無数の世界を創りたり。而して、またこれらはわれ自らの目的ありて造りしなり。而して、わが子によりてこれらの世界を創りたり。わが子とは、わが生みたる独子のことなり。
モーセ1,34,すべての人の最初なる者、われこれをアダムと名づく。而してこれは数多なり。
モーセ1,35,されど、この世とこの世に住める人々の話のみを汝にして聞かす。見よ、わが力の言によりて過ぎ行ける多くの世界あり。また今ある世界多くあり。これらは人にとりて数限りなし。されど、よろずのものはわれにとりて数えらる。そはよろずのものはわものにして、わ
モーセ1,35-1,知れなばり。
モーセ1,36,モーセ主に申して言いけるは、神代、僕を憐みたまいてこの世とこの世に住める人々と、また諸天のことを語りたまえ、さらば僕の心足りぬべし、と。
モーセ1,37,主なる神モーセに宣いけるは、諸々の天は数多し、人にとりては数知れず、されどわれにとりては数えられたり、諸々の天はわがものなればなり。
モーセ1,38,1つの世界とそれにつける天に過ぎ行く時は、誠に別の世界を生ず。かくしてわが業にもまたわが言にも終りなし。
モーセ1,39,見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらずなり。
モーセ1,40,さて、わが子モーセよ、われ汝の立てるこの世に就きて語らんと欲す、これより語らんとする所を記すべし。
モーセ1,41,人の子らわが言を無視し、汝の記す書より多くのことを取り猿。暁に、見よわれ汝の如き者を今1人起さん。而して汝の記すところのものは、人の子らの中、将来これを信ずる者すべての中に再びあらん。
モーセ1,42,(これらの言は、かの山の中にてモーセに語られたるが、その山の名は人の子らの中に知らるることなかるべし。而して、今やこれらの言汝に語られたり。信ずる者の他にこれを示すことなかれ。誠に然り。アーメン)。
モーセ2,,高価なる真珠　モーセの著　第2章
モーセ2,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されしを記す。
モーセ2,1,主、モーセに語りて言いたまわく、見よ、われこの天とこの地に就きて汝の啓示す。わが語るところの言を記すべし。われは始めなり終りなり、全能の神なり。わが生みたる独子によりてこれらのものを創りたり。然り、始めにわれ天と汝の立つところの地を創りたり。
モーセ2,2,地は形なくして空しかりき。而して、われ深き淵の面に暗黒を来らしめたり。また、わが”みたま”水の面にありて動きたりき。われは神なればなり。
モーセ2,3,われ神、光あれと言いたれば光ありき。
モーセ2,4,われ神、光を觀たるにその光善しかりき。而して、われ神、光を暗より分ちたり。
モーセ2,5,われ神、光を昼と名づけ、暗を夜と名づけたり。このことを、われわが力の言によりてん死たり。而してわが言の如く成りぬ。夕あり朝あり、これ第1の日なりき。

モーセ2,6,われ神、また言いけるは、水の中に大空あれと、而して誠にわが言の如く也ぬ。またわれ言いけるは、大空水と水とを分つべし、と。而してこのこと成りぬ。

モーセ2,7,われ神、大空の下のおおなる水を、大空の上の水より分ちたり。而して誠にわが言の如く成りぬ。

モーセ2,8,わが神、大空を天と名づけたり。夕あり朝あり、これ第2の日なりき。

モーセ2,9,われ神言いけるは、天の下の水は1つの所に寄り集れと、すなわちその如く成りぬ。またわれ神言いけるは、乾ける地あれと、而してその如く成りぬ。

モーセ2,10,われ神、乾ける地を陸と名づけ、水の寄り集れるを海と名づけたり。而してわれ神、わが創りたりし物皆善しと観たり。

モーセ2,11,われ神言いけるは、地は青草と、種子を生ずる草と、その種類に従いて実を結ぶ果樹と、自ら種子のある身を結ぶ樹とを地の上に出すべしと。而して誠にわが言の如く成りぬ。

モーセ2,12,地は青草と、その種類に従いて種子を生ずるあらゆる草と、その種類に従いて自ら種子のある身を結ぶところの樹を出せり。而してわれ神、わが創りたりし物皆寄りと観たり。

モーセ2,13,夕あり朝あり、これ第3日の日なりき。

モーセ2,14,われ神言いけるは、天の大空に諸々の光ありて昼と夜とを分ち、それらは徴のため、季節のため、日のため、年のためになるべし。

モーセ2,15,またそれらは天の大空にある諸々の光となりて地を照らすべしと、すなわちかくの如く成りぬ。

モーセ2,16,われ神、2つの大なる光を造り、大なる光に昼を司どらしめ、小さき光に夜を司どらしめたり。大なる光は太陽にして、小さき光は月なりき。諸々の星もまたすなわちわが言に従いて造られたり。

モーセ2,17,われ神、地を照らすためにこれらを天の大空に置き、

モーセ2,18,太陽をして昼を司どらしめ、月をして夜を司どらしめ、光と暗とを分たしむ。而してわれ神、わが造りたりしすべての物を善しと観たり。

モーセ2,19,夕あり朝あり、これ第4の日なりき。

モーセ2,20,われ神言いけるは、水は生きて動くものを豊に生じ、また天の大空高く地の上を飛ぶ生ずべし。と。

モーセ2,21,われ神、大なる鯨と水の豊に生ずる動くすべての生き物とをその種類に従いて創り、また翼のあるすべての取りをその種類に従いて創りたり。而して、われ神その創りたりしすべての物善しと観たり。

モーセ2,22,われ神、かれらを祝福していいけるは、豊に生めよ殖えよ、海の水に充ちよ、また鳥は地に殖えよと。

モーセ2,23,夕あり朝あり、これ第5の日なりき。

モーセ2,24,われ神いいけるは地は生き物をその種類に従いて出し、家畜と這うものと地の獣とをその種類に従いて出すべしと。すなわちかくの如く成りぬ。

モーセ2,25,われ神、地の獣をその種類に従い、家畜をその種類に従い、地のすべて這うものをその種類に従いて造りたり。而してわれ神、すべてこれらを善しと観たり。

モーセ2,26,われ神、太初よりわれと共にありたるわが生みし独子にいいけるは、われらに象りてわれらの像の如くにわれら人を造らんと。而してその如く成りぬ。われ神いいけるは、彼らに海の魚と空の鳥と家畜と全地と、地に這うあらゆる這うものとを治めしめんと。

モーセ2,27,われ神、わが像の如くに人を造れり。わが生みし独子の像の如くにこれを造り、すなわちこれを男と女とに造りたり。

モーセ2,28,われ神、彼らを祝福して彼らにいいけるは、豊に生めよ、殖えよ、地に充ちよ、地を従わせよ、また海の魚と空の鳥と地の上い動くすべての生物を治めよと。

モーセ2,29,われ神、人にいいけるは、見よわれ、全地の面にありて種子をもつすべての草と、種子をもつ果実の成るすべての樹とを汝らに与えぬ。これらは汝らの食物となるべし。

モーセ2,30,また地のすべての獣と、空のすべての鳥および地に這うすべてのものなどおよそわが生命を与えたるものには、われ食物としてすべての清き草を与うべしと。誠にわが言の如く成りぬ。

モーセ2,31,われ神、わが造りしすべてのものを観るに基だ善しかりき、夕あり朝あり、これ第6の日なりき。

モーセ3,,高価なる真珠　モーセの著 第3章

モーセ3,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されし書を誌す。(続)

モーセ3,1,かくの如く天地成りぬ。その万群ことごとくまた然り。

モーセ3,2,われ神、第7の日にわが工とそのすべて造りたりしものを竣たり。すなわちそのすべての工を竣りて、わが神、それらを善しと観たり。

モーセ3,3,われ神、第7の日を祝福してこれを聖めたり。そはわれ神、その創り為したる工をことごとく竣えて、この日に休みたればなり。

モーセ3,4,さて見よ。よく聞くべし。われ主なる神の天地を造りたる日に天地の創られたる時、天地の生成したるはかくの如し。

モーセ3,5,野のすべての木はいまだ地にある前にして、野のすべての草はいまだ生えざる前なりき。そはわれ主な

る神、わが語りしすべてのものを、これらがいまだ地の面に自然に在るに先だち霊として創りたればなり。またわれ主なる神、雨を地の面に降らせず、われ神すでにこ

モーセ3,5-1,人の子らを造りたるも、いまだ土地を耕す人なし。そはわれ天に於て彼らを創りて地お面にも水の中にも空の中にもいまだ肉ある者なかりければなり。

モーセ3,6,されど、われ主なる神、言を出したれば霧地より上り来りて土地の面をあまねく湿したり。

モーセ3,7,われ主なる神、土の塵を以て人を造り、生命の生きをその話孔に吹き入れたり。人すなわち生ける”霊の結合体”となりぬ。すなわち地の上に於ける最初の肉ある有ⁿにしてまた最初の人間なり。さりながら、すべてのものは前に創られたるがこれらはわが言により霊と

モーセ3,7-1,為されしなり。

モーセ3,8,わが神、エデンの東の方に1つの園を設けてわが造りし人をそこに置きたり。

モーセ3,9,われ主なる神、人の観るに美しきすべての樹を自然に土地より生ぜしめ、かくて人これを観るを得たり。このすべての樹もまた一種の生ける”霊の結合体”となりぬ。そはわが創りたる日に霊なりければなり。それは、われ神それを創りしその世界に、まことにわれが人

モーセ3,9-1,ために備えたるすべてのものすら創りしその世界にそのまま在りたればなり。しかし人はその食うに善きことを観たり。われ主なる神、その園の中に生命の樹と善悪を知るの樹もまた植えたり。

モーセ3,10,われ主なる神、1つの皮をエデンより出でしめて園を湿さしむ。而してこの河は、かしこより別れて4つの河の源となれり。

モーセ3,11,われ主なる神、その第1の名をピソンと呼べり。これはわれ主なる神が多くの金を創りしハビラのセンチをめぐるものなり。

モーセ3,12,その地の金は良し、またデリアムとしまめのうかしこにありき。

モーセ3,13,第2の河の名はギホンと呼べり。これはエチオピアの全地をめぐるものなり。

モーセ3,14,第3の河の名はヒデケルなりき。これはアッスリヤの東に向いて流るるものなり。第4の河はユフラテスなりき。

モーセ3,15,われ主なる神、かの人をとり彼をエデンの園に置きてこの園の手入れをなさしめ、またこれを守らしめたり。

モーセ3,16,われ主なる神、その人に命じて言いけるは、この園のすべての樹よりは汝の意のままに食うことを許さる。

モーセ3,17,されど善悪と知るの樹よりは汝食うべからず。然はあれども、食うと食わざるとは汝に任す、そは汝に与えられたればなり。されど、わが汝に禁じたるを忘るな。汝これを食う日には必ず死ぬべければなり。

モーセ3,18,われ主なる神、わが生みし独子に言いけるは、人独りなるは善しからず、これを以てわれ彼にふさわしき1人の助け手を彼のために造らんと。

モーセ3,19,われ主なる神、土よりして野のすべての獣と空のすべての取りとを造り、アダムがこれらを何と呼ぶかを見んとて、これらにアダムのところに来よと命じたり。彼らもまた生ける”霊の結合体”なりき。われ神、生命の息を彼らに吹き入れたればなり。而してアダムがす

モーセ3,19-1,生物を呼ぶところを以て、皆その名とすべしと命じたり。

モーセ3,20,アダムは、すべての家畜と空の鳥と野のすべての獣に名をつけたり。されどアダムには彼にふさわしき助け手1人もあらざりき。

モーセ3,21,ここに於てわれ主なる神、アダムを深く眠りに陥らしめ、彼睡りたればその肋骨の1つをとり、その肋骨を取りし所を肉をもて塞げり。

モーセ3,22,われ主なる神、男より取りたる肋骨を以て1人の女を造り、これをその男のところに連れ来れり。

モーセ3,23,アダム言いけるは、これぞわが骨よりの骨、わが肉よりの肉なるを知る。これは男より取りたる者なれば、われはこれを女と名づくべしと。

モーセ3,24,この故に、男はその父母を離れてその妻と結び合い2人1体となるべし。

モーセ3,25,かの男とその妻とは、2人共に裸のままにして恥しく思わざりき。

モーセ4,,高価なる真珠　モーセの著　第4章

モーセ4,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されしを記す。(続)

モーセ4,1,われ主なる神、モーセに語りて言いけるは、汝がわが生みたる独子の名によりて退けと命じたるかのサタンは太初より在りし其者なり。彼わが前に来りて言いけるは、見たまえ、われ比所に在り。われを遣わしたまえ。われ汝の子と成らん。われことごとく人類を贖いて

モーセ4,1-1,失うことなからしめん。われ正にかくの如くすべし。これを以てわれに汝の誉を与えよと。

モーセ4,2,されど見よ、わが愛しむ子、太初より選びたる者なるわが愛子、われに言いけるは、父よ、御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ、と。

モーセ4,3,これを以てそのサタンわれに叛きて、われ主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼさんとな

し、しかもまたわが持てる権能を自らに与うべきことを求めたるにより、われわが生みたる独子の権能によりて彼を投げ落さしめたり。

モーセ4,4,而して彼はサタンと成れり、実にあらゆる虚偽の父なる悪魔となりて人を欺きだまし、以てわが声に聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となすなり。

モーセ4,5,さてわれ主なる神の創りし野の生物の中にて蛇最も悪賢し。

モーセ4,6,サタン悪計を蛇の心に入れ(サタンすでに多くの者をそそのかして味方につけたり)神の御旨を知らざりしかば、またイヴをだまさんとせり。而してこれを以てサタンは世を滅ぼさんと図りたり。

モーセ4,7,サタンの女に言いけるは、神、汝ら其のすべての樹よりは食うべからずとまことに言いたまいしや。(彼は蛇の口によりてこれを語れり)。

モーセ4,8,女、蛇に言いけるは、われらは園の諸々の樹の実を食うことを許さる、

モーセ4,9,されど、汝が園の中央に見る樹の実をば、神は汝らの死なざるよう、汝らこれをとりて食うべからず。またこれに触るべからずと言いたまえり、と。

モーセ4,10,よりて、蛇この女に言いけるは、汝ら必ず死ぬることあらじ。

モーセ4,11,そは神は汝らがそれを食う日には、汝らの眼開け、汝ら神々の如くなりて善悪を知る者となるをまことに知りたまえばなり。

モーセ4,12,女、この樹が食うに善きを見、また眼に麗しく且つその賢くならんがために好き樹となりたるを見たるによりて、その実をとりてついに食い、また己と共なる夫に与えければ彼もこれを食えり、

モーセ4,13,ここに於て、2人の眼共に開けてそれまで裸なりしことを知り、すなわち2人はいちじくの葉を綴り合わせて前掛を作れり。

モーセ4,14,彼ら日の涼しきころ園の中に歩み居りし時、主なる神の声を聞きしかば、アダムとその妻ただちに主なる神の面を避け、園の樹の間に行きてかくれたり。

モーセ4,15,われ主なる神、アダムを呼びてこれに言いけるは、汝は何所に行くや。

モーセ4,16,彼言いけるは、われ園の中にて汝の声を聞き、わが裸あんなを見しによりて怖れてかくれたりと。

モーセ4,17,われ主なる神、アダムに言いけるは、誰が汝の裸なるを告げしや。わが汝に、食うなかれ、もし食えば汝正に死ぬるべし、と命じたるその樹より食いたりしや、と。

モーセ4,18,その男言いけるは、汝がわれに与えてわれと共に居るべしと命じたまひし女、その女われにその樹の実を与えられたればわれ食えりと。

モーセ4,19,われ主なる神、その女に言いけるは、汝が為したるこれは何事ぞや。女言いけるは、かの蛇われを瞞したれば、われついに食えりと。

モーセ4,20,われ主なる神、蛇に言いけるは、汝はこれを為したるに由りて、汝はすべての家畜と野のすべての獣の中最も咀嚼るべし。汝は腹ばいて歩き生涯塵を食うべしと。

モーセ4,21,また、わが獲汝と女の間、および汝の子孫と女の子孫との間に怨みを置くべし。彼は汝の頭を打ち砕き、汝は彼のかかとをかみ砕くべし。

モーセ4,22,われ主なる神、女に言いけるは、われ汝の妊みの苦しみを大いに増すべし。汝は苦しみて子を生まん。されども汝は夫を欲し彼は汝を支配すべし。

モーセ4,23,またわれ主なる神アダムに言いけるは、汝はその妻の言に聞き従い、わが汝に命じて”食うべからず、地は汝のために咀嚼る”と言言いたる樹の実を食いたるによりて、汝は生涯苦しみて地より食を得ん。

モーセ4,24,地は、いばらとあざみとを汝のために生じ、汝は野の草を食うべし。

モーセ4,25,汝は顔の汗によりて食物を食い、而して終に土に帰る。汝は正に死ぬべければなり。そは、土の中より汝は取られたればなり。汝は塵なりき。さればついに塵に帰るべし、と。

モーセ4,26,アダムとその妻の名をイヴと名づけたり。そは、イヴはすべての生けるものの母なればなり。またわれ主なる神、すべての女の最初の者をかく呼びし故なり。而してこれを数多なり。

モーセ4,27,われ主なる神、アダムとその妻のために皮衣を作りて彼らに着せたり。

モーセ4,28,われ主なる神、わが生みたる独子に言いけるは、見よ、かの人われらの1人の如くとなりて善悪を知るに至りぬ。されば、われは彼がその手を伸べて生命の樹の実をもまたとりて食い、限りなく生きむこととおそる。

モーセ4,29,それ故に、われ主なる神は彼をエデンの園より出して、彼がとりて造られたるその土を耕さしむべし。

モーセ4,30,われ主なる神の生きて在るが如くに、すなわちわが出したる言は徒らになることを得ず。言わが口より出ずれば、その言の如くに成らざるべからざればなり。

モーセ4,31,かくしてわれのかの人を追出し、エデンの園の東にケルビムとあらゆる方向に廻る焔の剣とを置きて生命の樹の途を守る。

モーセ4,32,(これらは、われがわが僕モーセに語りし言にして、誠にわが心に思う如くに真実なり。而してその言を汝に語れり。汝に命ずるまでは信ずる者のほかに決して何人にもこれを示すべからず。アーメン)。

モーセ5,,高価なる真珠　モーセの著　第5章

モーセ5,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されしまを誌す。(続)

モーセ5,1,われ主なる神、アダムとイヴを追い出してより、アダムは先にわれ主の命じたりし如く、土地を耕しすべての野の獣を治め、彼の額の汗によりて食物を食うことを始めたり。而して、妻なるイヴもまことに彼と共に働きたり。

モーセ5,2,アダムその妻を知りて、妻アダムの息子娘らを生み、その子供たち殖えて地に満し始めけり。

モーセ5,3,この時よりアダムの息子娘たちは2人ずつ地に分れて土地を耕し、羊の群を飼ひ始め、彼らもまた息子娘たちを生みたり。

モーセ5,4,アダムとその妻イヴ主の御名を呼びたるに、エデンの園を指して行く途のかなたより声聞えて彼らに語りたまえるが、その御顔は見えざりき。そは彼ら主の居りたもう所より締め出されたればなり。

モーセ5,5,主、彼らに誠命を下して宣いけるは、主なる汝らの神を礼拝し、主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべしと。アダムは主の誠命によく従いぬ。

モーセ5,6,多くの日を経て、主の天使1人アダムに現われて言いけるは、汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。

モーセ5,7,ここに天使語りて言いけるは、この犠牲を捧ぐることは、御父の生みたもう恵と真理に満てるただ独りの御子が犠牲となりたもうことのひながたなり。

モーセ5,8,この故に、汝の為すすべてを御子の御名によりて為せ。また汝悔い改めて今よりいつまでも御子の御名によりて神を呼ぶべし。

モーセ5,9,その日、父と御子の証を為したもう聖霊アダムに下りて宣いけるは、われは太初より、また今よりとこしえに、父の生みたまえる独子なり。汝堕ちしが故に贖わるることを得ん。贖われんと欲するありとあらゆるすべての人類もまた然りと。

モーセ5,10,その日、アダム神を讃めて”みたま”に満たされ、この世にあるすべての眷族に就き予言し太初て言いけるは、神の御名は讃むべきかな。われ罪を犯せし故にわが眼は開けたり。われこの世に生きて悦びを受け、われまた再び肉体に在りて神を見ん。

モーセ5,11,彼の妻イヴ、すべてこれらのことを聞き喜びて言いけるは、もしわれら罪を犯さざりせば、われら子孫を得ざりしならん。また善悪の区別も知らず、われらの贖わるる喜びも知らず、すべて従順なる者に神の賜わる永遠の生命も知らざりしならん、と。

モーセ5,12,アダムとイヴとは神の御名を讃め、息子娘らにすべての事を知らしめたり。

モーセ5,13,ここにサタン彼らの中に来りて言いけるは、われもまた神の子なりと、また彼らに命じて言いけるは、アダムとイヴの言を信ずるなかれ、と。されば、彼らアダムとイヴの言を信ずることなくサタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者とな

モーセ5,14,よりて主なる神は、聖霊によりて至る所人を呼びてその悔い改むべきを命じたまえり。

モーセ5,15,また御子を信じて彼らの罪を悔い改むる者は御名救わるべく、また信ぜずして悔い改めざる者は皆救われず。而して言、神の口より確なる神の命となりて出でたるを以て、これらのこと充たされざるべからず、と。

モーセ5,16,アダムとその妻イヴとは神を呼ぶことを止めざりき。アダムとその妻イヴを知る、イヴはらみてカインを生み言いけるは、われ主によりて1人の男子を得たり。これを以て、恐らくはこの子神の言を棄てざらんと。然るに見よ、カイン聴かずして言いけるは、わが知るべ

モーセ5,16-1,何人なりやと。

モーセ5,17,イヴ、またはらみてその弟アベルを生めり。アベルは主の御声に聞き従えり。アベル羊を飼う者、されどカインは土を耕す者なりき。

モーセ5,18,而して、カインは神よりもサタンを愛でたり。サタン彼に命じて言いけるは、主に供物を捧げよ、と。

モーセ5,19,日を経て、カイン土より出る実を持ち来りて主に供物となせり。

モーセ5,20,アベルもまたその羊の群の中の初子と羊の肥たるものを持ち来り。主はアベルとその供物を顧みたまひしかども、

モーセ5,21,カインとその供物を顧みたまわざりき。よりてサタンこれを知りて喜びたり。而して、カインは甚だ怒りてその面を伏せたり。

モーセ5,22,主カインに宣いけるは、汝何ぞ怒るや、何ぞ汝の面を伏するや。

モーセ5,23,汝、もし善きを行わば受け納れらるるなり。もし善きを行わずば、罪門口に伏しサタンは汝を得んと欲す。汝わが誠命に聞き従わずばわれ汝をわたさん。さらばサタンの望みに従いて汝に成り汝は彼を支配せん。

モーセ5,24,この時より、汝はサタンの言う偽言の父となるべし、汝は”滅亡”と呼ばれん、汝もまたこの世の前より在りたればなり。

モーセ5,25,而して、ゆくさきこれらの憎むべき事はカインより得たり、そは彼神より得たりしひとときわ大いなる御旨を拒みたればなり、と言われん。汝悔い改めずば、汝に加うべき咎いはこれなり、と。

モーセ5,26,カイン怒りて、もはや主の御声にもその弟アベルの声にも耳を傾けざりき。されどアベルは主の前に聖

く歩みたり。

モーセ5,27,而してアダムとその妻は、カインとその兄弟らの故に主の見舞えに悲しめり。

モーセ5,28,カインはその兄弟の娘を妻にめとり、この兩人は神よりもサタンを愛でたり。

モーセ5,29,而してサタン、カインに言いけるは、汝の咽を指してわれに誓え、汝それを語らば死せん。また汝の兄弟らにその頭を指し、生ける神を指して、それを語らずと誓わしめよ。もし彼らそれを語らば、必ず死すべければなり。かくして、それを汝の父に知らしむるなかれ。

モーセ5,29-1,今日汝の弟アベルを汝の手にわたすべし。

モーセ5,30,サタン、カインにその命に従うべしと誓い、すべてこれらのこと秘密に為されたり。

モーセ5,31,カイン言いけるは、われは誠にこの大なる秘密の主マハンなり。かくてわれ人を殺して得を得ん。この故に、カインは大マハンと呼ばれて己が邪曲を誇りとせり。

モーセ5,32,カイン野に行きたり、而してカインその弟アベルと物語りぬ。彼ら野に居りし時、カインその弟アベルに反抗して起ちこれを殺せり。

モーセ5,33,カイン己の為したることを誇りて言いけるは、われを妨ぐる者なし、誠にわが弟の羊の群わが手に落つ、と。

モーセ5,34,主、カインに言いたまいけるは、汝の兄弟アベルは何所にありや。カイン言う、われこれを知らず、われあにわが兄弟を守る者ならんやと。

モーセ5,35,主、言いたまいけるは、汝は何を為したるか、汝の兄弟の地の声地よりわれに向って叫べり。

モーセ5,36,されば汝はこの土地より咀わるべし、この土地はその口を開きて汝の兄弟の血を汝の手より受けたればなり。

モーセ5,37,汝土地を耕す時、土地はこれより汝にその力を出さじ、汝は地上をさまよい歩く落人となるべし、と。

モーセ5,38,カイン主に言いけるは、サタンわが兄弟の有る羊の群によりてわれを誘惑せり。われまた怒れり、そは汝わが兄弟の供物を受け納れたまいしも、わが供物を受け納れたまわざればなり。わが罰は大いにして負うこと能わず。

モーセ5,39,見よ、汝今日主の面前よりわれを追い出したまいたり。われ汝の面よりかくるに至らん。われは地上をさまよい歩く落人となるべし。われを見出す者はわが邪曲なりしためにわれを殺さん。これらのこと主よりかくれなきが故なり。

モーセ5,40,われ主かれに言いけるは、およそ汝を殺す者は7杯の復讐を受くべし、と。而してわれ主、カインを見出す者の何人も彼を殺さざるために1つの印を彼に与えたり。

モーセ5,41,カイン、主の御前より締め出されてその妻および彼の多くの兄弟らと共にエデンの東なるノドの地に住めり。

モーセ5,42,カインその妻を知る、妻はらみてエノクを生めり。またカイン多くの息子娘らもうけたり。カイン1つの町を建て、その町の名をその息子の名に従いてエノク隣づけたり。

モーセ5,43,エノクにエラドおよび他の息子娘たち生れたり。イラドにメホヤエルおよび他の息子娘たち生れたり。メホヤエル、メトサエルおよび他の息子娘たちを生み、メトサエル、メトサエルおよび他の息子娘たちを生み、メトサエル、ラメクを生めり。

モーセ5,44,ラメクは2人の妻をめとれり。1人の名をアダと言ひ、他の1人の名をチラと言えり。

モーセ5,45,アダ、ヤバルを生めり、ヤバルは天幕に住む者の先祖にして、かれらはまた家畜を飼う者なりき。その兄弟の名をユブルと言う。彼は琴と笛とをあつかうすべての者の先祖なり。

モーセ5,46,またチラ、トバル・カインを生めり。彼は黄銅と鉄の臭くをするすべての者の教師なり。トバル・カインの姉妹はナアマと呼ばれたり。

モーセ5,47,ラメクその妻らに言いけるは、アダとチラよ、わが声を聞け、ラメクの妻らよ、わが言に耳を傾けよ。われわが創傷のために1人の男を殺し、またわが傷のために1人の若者を殺せばなり。

モーセ5,48,カインのために7倍の復讐あらば、誠にラメクのためには7倍17倍の復讐あらん。

モーセ5,49,ラメク、カインの仕方にならいてサタンと誓約を結びし故、これによりて彼はサタンによりカインに授けられしかの大なる秘密の主、大マハンとなれり。然るにエノクの息子イラドは彼らの秘密を知りたれば、アダムの子らにこの秘密をあばき始めたり。

モーセ5,50,これを以てラメク怒りて彼を殺せり。彼は利を得んがためにその兄弟アベルを殺したるカインの如くならずして、誓約のために彼を殺したり。

モーセ5,51,ここに、カインの時代より1つの秘密の結社ありき。彼らの仕事は暗黒の中にありて、あらゆる人の彼の兄弟たることを知れり。

モーセ5,52,故に、主はラメクとその1家とすべてサタンと誓約をすでに結べる者たちを咀いたまえり。そは彼ら神の誠命を守らざりしによる。このこと神の喜びたもうところとならず、彼らに導きと恵みを与えたまわざりしにより、彼らの為す業は憎むべきものにしてすべての人の

モーセ5,52-1, 揺り始めたり。

モーセ5,53, 人の息子たち人の娘たちの中にはこれらのことを語られざりき。ラメクはすでにその妻たちにこの秘密を語りしかば、妻たちラメクに叛きてこれらのことをひろく宣べ伝えて容赦することなし。

モーセ5,54, この故に、ラメクは賤しめられ捨てられて、死ぬことを恐れ人の子らの中に来たらざりき。

モーセ5,55, かくて暗黒の業はすべて人の子たちの中にひろく行われ始めたり。

モーセ5,56, 而して神は地を甚しき咀いを以てのろい、悪人もを怒り、また神が先に造りし人の子たちをすべて怒りたまえり。

モーセ5,57, そは彼ら神の声に聞き従わず、また神の生みたまいし独子すなわち創世の前より備えられ、”時の絶頂”に及びて来るべしと神の宣べたまえる者を信ぜざりしによる。

モーセ5,58, かくの如くして、福音は最初より説き始められて、神の御前より遣わされし聖き天使たちにより、神自らの声により、また聖霊の賜によりて宣べられたり。

モーセ5,59, かくの如くして、1つの聖き儀式により、説かれたる福音により、またその福音のこの世の終りまで世にあるべしと宣べられたる神の御旨によりて、よろずの物すべてアダムに授けられたり。されば誠に件の如くなりき。アーメン。

モーセ6,, 高価なる真珠 モーセの著 第6章

モーセ6,*-, 1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されし書を誌す。(続)

モーセ6,1, かくてアダム神の御声に聞き従い、その息子たちに悔い改めむことを求めたり。

モーセ6,2, アダム再びその妻を知り、妻1人の男の子を生めり。かくしてアダムその子をセツと呼べり。アダム神の御名を讃めてかく言えり。神カインの殺したるアベルに代りてわれに今1つの種を設けたまえり、と。

モーセ6,3, 神セツに現われたまえり。セツ神に叛かずして彼の兄アベルの如く神の喜びたもう犠牲を捧げたり。セツに1人の男子生れ、彼これをイノスと呼べり。

モーセ6,4, それより、これらの者たち主の御名を呼ぶことを始めたれば、主彼らを祝福したまえり。

モーセ6,5, ここに1部の覚えの書誌さる、その中に誌すところはアダムの言にてなり。そは靈感の”みたま”によりて書き誌すために、神を呼び求めたる者にみな与えられたればなり。

モーセ6,6, この者たちによりて、その子供たちは読書を教えられ、その言は清くして穢れなかりき。

モーセ6,7, さて始めより在りしこの神権は、この世の終りにも在るものなり。

モーセ6,8, さて、アダム聖霊に感じてこの予言を語りたれば、1つの系図神の子たちに就きて保たる、これアダムの系譜なりき。いわく、神人を造りたまいし日神の像に以せて彼を造りたまえり。

モーセ6,9, 神自身の体に象り、男と女とを造りたまえり、彼ら造られて神の足台の上なる地に生ける”霊の結合体”となりたる時、神彼らを祝福し彼らの名をアダムと呼びたまえり。

モーセ6,10, アダム130才にして己れの像に似せ己に象りて1人の男子を生み彼をセツと呼べり。

モーセ6,11, アダム、セツを生みたる後の齢は800才にして、彼多くの息子娘たちを生みたり。

モーセ6,12, アダムのこの世に生きたる年齢はすべて930才にしてその齢に死せり。

モーセ6,13, セツは105才にしてイノスを生みたり。セツは一生予言をなし、その息子に神の道を教えたり。この故にイノスもまた予言せり。

モーセ6,14, セツ、イノスを生みし後、807才生きて多くの息子娘たちを生めり。

モーセ6,15, 而して、人の子たち全地の面に殖えて多くなれり。その頃サタンは人々の中に大いなる領分を有ち、人々の心の中に猛き威を振いたり。これより戦と流血と生じ、人はその手を自らの兄弟に下して殺害せり。こは権力を求めんとする秘密の仕事による。

モーセ6,16, セツのこの世に生きたるはすべて912才にしてその齢に死せり。

モーセ6,17, イノスは90才にしてカイナンを生めり、而してイノスと神の民の中なる残りの者たちシュロンと言える地より出で来りて、イノスがカイナンと呼べる己れの子の名をとりて名づけたる約束の地に住めり。

モーセ6,18, イノスはカイナンを生める後815才生きて多くの息子と娘たちを生めり。イノスのこの世に生きたるはすべて905才にしてその齢に死せり。

モーセ6,19, カイナンは70才にしてマハリールを生めり、而してカイナン、マハリールを生める後840才生きたり。而して、息子たちを生めり。カイナンのこの世に生きたるはすべて910才にしてその齢に死せり。

モーセ6,20, マハリール65才にしてジェレドを生めり。マハリールはジェレドを生みし後830才生きて息子娘たちを生みたり。マハリールのこの世に生きたるはすべて895才にしてその齢に死せり。

モーセ6,21, ジェレドは162才にしてエノクを生めり。ジェレドはエノクを生みし後800才この世に生きて息子娘たちを生めり。而して、ジェレドはエノクに神の道をことごとく教えたり。

モーセ6,22, これアダムの子孫の系図にして、アダムは神の子にして神は自らアダムと共に言を交したまえり。

モーセ6,23, アダムの子孫は義の道を説く者にして、これを語り予言を為し、至る所の人々に悔い改めんことを求めたり。而して、人の子たちに信仰教えられたりき。

モーセ6,24,ジェレドのこの世に生きたるはすべて962才にしてこの齢に死せり。

モーセ6,25,エノクは65才にしてメツセアを生めり。

モーセ6,26,エノクは、陸を旅して人々の中を行けり。而して彼の旅行きし時、神の”みたま”天より下りて彼の上に留まれり。

モーセ6,27,彼、天より1つの声ありて言うを聞けり。曰く”わが子、エノクよ。この民に予言して言うべし。悔い改めよ、とこれ主の言なり。われこの民を怒り、わが激しき憤り彼らに向いて燃ゆ。そは、この民の心かたくなり、耳鈍くなり、眼遠くを見る能わざればなり。

モーセ6,28,われ初めて彼らを創りしよりこの方、多くの代々彼ら道を離れわれを否み、暗黒の中に自らの謀ごとを求む。而して自らの憎むべき仕業の中に人殺しを企み、わが彼らの父アダムに与えたる誠命を守りしことなし。

モーセ6,29,これを以て、彼ら先に誓いを為したれば、その誓によりて自ら死を招きぬ。彼ら悔い改めずば、われまさに彼らのために地獄を用意せり。

モーセ6,30,こはわが命ずるところにして、創世の時にわが口より、しかもこの世の基より世に遣わしたるものなり。而して、わが僕らなる汝らの先祖の口によりてこの先この世の果に至るまで世に遣わさるに命じたる”ところなり”。

モーセ6,31,エノクこれらの言を聞きし時、彼主の御前に於て地にひれ伏して申さく、われ主の御目に適いしは何の故なりや。われは年行かぬ者に過ぎず、すべての人々われを惡む。われは口重き者なればなり、いかで汝の僕ならむや。

モーセ6,32,主、エノクに言いたもう。行きてわが命じたる如く為せ。然らば、何人も汝を貫くを得ず。汝の口を開け、さらば充たさるべし。而してわれ汝に言うことを与えん。そはすべて肉ある者はわが手の中にあり、われ善しと見る如くこれに為すべし。

モーセ6,33,汝この民に言え。汝らこの日選りとりて汝らを創りし主なる神に仕えよ、と。

モーセ6,34,見よ、わが”みたま”汝の上にあり、されば汝の言うところわれすべてこれを正しとせん。されば、山々は汝の前より逃げ去り、河はその流るる途を変えん。汝はわれにありわれ汝にあり、この故にわれと共に歩け。

モーセ6,35,主、エノクに語りてのたまわく、汝の眼に粘土を塗りてこれを洗え、然らば汝見るを得ん。エノクその如く為せり。

モーセ6,36,エノク神の創りたまえる数々の霊を見、また肉の眼をもては見えざりしものを見たり。さればそれより、主その民に1人の聖見者を挙げたまえりと、ひろくその地に言われし言葉となれり。

モーセ6,37,エノクその地の人々の中に出て行き、諸々の岡の上と高き所に立ちて大声を発して叫び、彼らの為したる業に反対して証せり。これを以てすべての人々彼の故に怒る。

モーセ6,38,而して人々彼の言葉を聞かんとて高き所に出て来りて、天幕を守る者供に言えり。汝らここに留まりて天幕を守れ、その間にわれらかしこに行きて聖見者を見ん。彼は予言を為す、この国の中に変りたることあり、われらの中に1人の野生の人出で来りぬ、と。

モーセ6,39,彼らエノクの言葉を聞きし時、彼に手をかくる者1人もなかりき。彼の言葉を聞きたる者恐れを生じたるによる。エノクは神と共に歩みしが故なり。

モーセ6,40,ここにマヒヤと名づくる1人の者来りて彼に言えり。われらに明らかに告げよ。汝は何者にして何所より来れるか。

モーセ6,41,エノク彼らに告げて曰く、われカインの地より出で来りぬ。こはわが先祖の地、今の代に至るまで正義の地なり。わが父は神の道をすべてわれに教えたり。

モーセ6,42,われカイナンの地より東の海沿いに旅をしける時示現を見たり。見よ、われ天を見たるに、主われに語りて誠命をたまえり。これを以てその誠命を守るためにわれこれらの言を語り出すなり。

モーセ6,43,エノクその語ることをつづけて曰く、われと共に語りたまひしその主は誠に天の神なり。そはわが神にしてまた汝らの神なれば、汝らはわが兄弟なり。汝らなんぞ自ら議りて天の神を否むや。

モーセ6,44,彼は諸々の天を創り、地はその足台なり。地の基は彼のものなり。見よ、彼は地の基を据えたり。地の面は大勢の人をもたらしたるは彼なり。

モーセ6,45,而して、死われらの先祖に來りたるにもかかわらず、われらはわれらの先祖を知りてこれを否むを得ず、すなわちわれらの知る最初の先祖アダムをわれら知るなり。

モーセ6,46,そは、神の指もて教えられたる手本に従い、われらの中に覚えの書を誌し来れり。而してこれに載するはわれらの用うる言葉なり。

モーセ6,47,エノクこれらの神の言を語り出でし時、人々ふるえおののきて彼の前に立つことを得ざりき。

モーセ6,48,これをもてエノク彼らに言いけるは、アダム墮ちたるが故にわれら今ここに在り。またアダムの墮ちたるによりて死は来れり。この故にわれら不幸と禍とを味わう者とせられたり。

モーセ6,49,見よ、人の子らの中にサタン入り来り、人の子らを誘いてサタンを拝ましむる故に、人々肉欲を好み、快樂に耽り、惡事を行うようになり、神の御前より締め出さるに至れり。

モーセ6,50,されど神はわれらの先祖にすべての人悔い改めざるべからざるを知らしめたまえり。

モーセ6,51,而して神はわれらの父アダムを自らの声をもて呼んでのたまわく、われは神なり、われはこの呼を造れり。また人をその肉体をとらざる前に造りたり。

モーセ6,52,神はまたアダムに言いたまえり。もし汝われに心を向け、わが声を聴きて信じ、且つすべて汝の罪を悔い改め、恩恵と真理に充ちたるわが生みし独子の名により、すなわちそれによりて後に人の子らの救わるる天下に与えらるる唯一の名、すなわちイエス・キリストの名

モーセ6,52-1,水に入りてバプテスマを受くるならば、汝聖霊の賜を受くべし。而してすべてイエス・キリストの名によりて求むれば、何にてもあれ求むるところは汝に与えられん。

モーセ6,53,われらの父なるアダム、主に申さく、何が故に人は悔い改めて、水にてバプテスマを受けざるべからざるか。主、アダムに言いたもう。見よ、われ汝がエデンの園にて犯したる汝の罪を赦したり。

モーセ6,54,これよりひろく人々の中に次のこと言われたり。神の子子孫の罪を贖いたまえり。贖われたれば両親の罪その子らの頭に帰すること能わず、彼らは創世の前より全ければなり、と。

モーセ6,55,また主、アダムに言いてのたまわく、汝らの子らは罪の中に宿さるる故に、すなわち空ら成長し始むるやその心に罪を宿す。しかして善き事を賞美するを白人がために、苦きことを味わうなり。

モーセ6,56,而して彼らは善悪を区別する力を与えらる。然るが故に、彼らは自由意志をもつ者なり。されば、われ汝に今1つの律法と誠命とを与えたり。

モーセ6,57,この故に、汝らの子らに教えよ、すなわちすべての人は何所にあるもことごとく悔い改めざるべからず。然らざれば彼ら決して神の王国を嗣ぐこと能わず。汚れたる者は王国に住むこと能わず、すなわち神の御前に住むこと能わざればなり。アダムの言にて”聖なる人”

モーセ6,57-1,御名なり。神の生みたもう独子の名は”人の子”なり。こはすなわちイエス・キリスト、義しき判士にして”時の絶頂”に来るべし。

モーセ6,58,故にわれ汝に1つの誠命を与えてこれらの事を汝らの子らに自由に教えしむ。曰く、

モーセ6,59,罪によりて墮落は来れり。その墮落によりて土は来れり。汝ら水と、血と、わが創りし霊とによりてこの呼に生れたれば、塵よりして生ける”霊の結合体”になりぬ。されば、誠に汝ら水と”みたま”とによりて再び生れ、わが生みし独子の血によりて清められて天の王

モーセ6,59-1,入らざるべからず。かくして汝らすべての罪より清められ、この世に於て永遠お生命の言を受け、来るべき世に於て永遠の生命、まことに不死不滅の栄光を受くるなり。

モーセ6,60,そは汝ら水によりて誠命を守り、”みたま”によりて義とせられ、血によりて聖めらるる故なり。

モーセ6,61,この故に、天の記録、慰め主、不死の栄光に属く平和なること、すべてのものの真理、すべてのものを生かしすべてのものに生命を与えるもの、また智恵と憐みと真理と正義と審判とによりてすべてのものを知りすべての権能を有するものを汝らの中に宿らしむ。

モーセ6,62,見よ、今われ汝に告ぐ、こはこれより”時の絶頂”に来るべきわが生みし独子の血によりて、すべての人に来らしむる救いの計画なり。

モーセ6,63,見よ、すべての事物は創られて仮の世のものも霊にあるものもわれに就きて証をなす。すなわち天にあるもの、地の上にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもの、上にあるものも、下にあるものも、すべてのものわれに就きて証をなす。

モーセ6,64,而して、主、われらの父なるアダムと語り終えたまいし時、アダム主に向いてよばわりたるに、主の”みたま”によりとらえられ行きて水の中に引き込まれ、水中に沈められて、また水の中より引き出されたり。

モーセ6,65,かくの如く、アダムはバプテスマを受け、神の”みたま”彼に下れり。かくして、彼は”みたま”によりて生れ、内なる人に於て生かされたり。

モーセ6,66,而してアダム天より語る声を聞けり、曰く、汝は火と聖霊とをもてバプテスマを受けたり。これ今よりとこしえに至るまで父と子の証なり。

モーセ6,67,また汝は永遠より永遠に亘りて、その寿命始めなくその齢尽きざる者の神権を受く。

モーセ6,68,見よ、汝われにありてひとつなり。神の子の1人なり。かくの如く一切の者はわが子らとなるを得ん。アーメン。

モーセ7,,高価なる真珠 モーセの著 第7章

モーセ7,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されしを記す。(続)

モーセ7,1,エノクその語ることを続けて曰く、見よ、わが父祖アダムこれらのことを教えたるに、多くの者信じて神の子となりぬ。されどまた多くの者は信ぜずしてその罪の中に亡びぬ。彼ら今苦悩の中に怖れを抱きて眺めつつあり。そは神の憤り烈火の如く怒りて彼らの上に注が

モーセ7,1-1,以てなり。

モーセ7,2,その時より、エノク予言し始めて民に告げて曰く、われ旅しける折マフヤと言える地に立ちて主に呼ばわりたるに、天より声あり、汝戻りてシオンの山に上れ、と。

モーセ7,3,われ立ち返りてその山に上りぬ。而してその山に立ちたる時、われ天開くを見て栄光に包まれたり。
モーセ7,4,われ主を見たり。主はわが面の前に立ちたまえり。あたかも人、互いに顔と顔を相見て語るが如し。主われに言いたまいけるは、見よ、さらばわれ幾世に亘りて汝にこの世を示すべし、と。
モーセ7,5,われシュムの谷にて見たり。見よ、天幕の中に住める多くの人々あり、こはシュムの民なりき。
モーセ7,6,また主われに言いは、汝見よ、と。われ来たの方を見たるに、天幕の中に住えるカナンの民を見たり。
モーセ7,7,主、われに言いたもう。予言せよ、と。われ予言して言えり。見よ、大勢のカナン任陣立をなしてシュムの民へ戦に行かん。而して彼らを殺して1人も余すところなくこれを滅ぼさん。而して、カナン民分れてその土地に住むに、土地は不毛にして収穫なく、カナン民
モーセ7,7-1,民のほかには如何なる民も住うことなし。
モーセ7,8,見よ、主はその地を呪いて酷熱の地となし、そこはとこしえに不毛の地となり行かん。またすべてカナンの子らの上に暗黒来り、彼らはすべての人々の中にありて賤められたり。
モーセ7,9,また、主われに言いたまわく、汝見よ、と。われ見たるにシャロンの地、エノクの地、オムネルの地、ヘニの地、シュムの地、ハネルの地、ハナニヤの地およびこれらの地に住めるすべての者を見たり。
モーセ7,10,主われに言いたまえり、これらの民に行きて言え、われ出で来りて咄いをもて彼らを打ち彼ら死なざるために悔い改めよ、と。
モーセ7,11,主、われに誠命をたまいてのたまわく、汝、父と恩恵と真理に充てる子と、父と子を証する聖霊の御名によりて、バプテスマを施せよ、と。
モーセ7,12,而してエノクはカナン民を除きて、その他すべての民に悔い改めよと呼びつづけたり。
モーセ7,13,エノクの信仰、神の民を率いるほどに大いなりければ、民の敵来りて彼らと戦えり。エノク主の言を出しけるに、彼の命に従いて地は震い山は逃げ去りぬ。また皮はその流んぼそとに出で、獅子のほえ声荒野より聞えたり。されば、すべての国民大いに怖れたり。実に、
モーセ7,13-1,エノクの言はさほどに力あり、神のエノクに与えたまいし言の力はさほどに大いなりき、
モーセ7,14,また海の深みより1つの陸出で来り。神の民に敵する者供の怖れ大いなりける程に、彼ら逃れて遙に離れて立ち、海の深みより出で来りたる陸の上に上り行けり。
モーセ7,15,而して、その国の巨人たちもまた遙に離れて立てり。而して神に叛きて戦えるすべての民の上に咄い行きわたりぬ。
モーセ7,16,その時より彼らの中に戦と流血ありき。然るに、主来りてその民と共に住みたまいたれば、彼ら正義の中に住みたりき。
モーセ7,17,主の民の上にありたる主の栄光甚だ大いなりければ、すべての国民主を怖れたり。主はその土地を祝したまいたれば、民は山の上と高き所にて祝福を受け誠に栄えたり。
モーセ7,18,主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を1にし、精神を1にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者1人もなかりき。
モーセ7,19,エノク神の民に義しきに適いて教えを説きつづけたり。而して、エノクの居たる肥大に彼は1つの市を建て、それを聖なる市すなわちシオンと呼べり。
モーセ7,20,エノク、主と共に語り主に言いは、誠にシオンはとこしえに安らかに住まん、と。されど主エノクに宣わく、われはシオンを祝福したれどその余の民を咄えりと。
モーセ7,21,而して、主エノクにこの世に住める者をことごとく見せたまいり。而して、エノクは見たり、みよ、誠にシオンは時りて天にとり挙げられたるを。主、エノクに言いたもう。わが住居をとこしえに見よ、と。
モーセ7,22,エノク、またアダムの子らなりしその余の人々を見たり。これらの者はカインのすえのほかは、みなアダムのすえの交り合いたる者なり。そはカインのすえは黒木膚にして彼らの中に居る所なかりし故なり。
モーセ7,23,そのシオンの天にとり挙げられし後、エノクは見たり。実にこの世の国民すべて彼の前に在ることを。
モーセ7,24,かくて幾世を経たり。而してエノクは高きに挙げられ、すなわち父と”人の子”の懷の中にありたり。然るに、みよ、サタン力全地の面にありき。
モーセ7,25,エノク天より降る天使らを見たり。而して彼は、禍なるかな、禍なるかな、この世に住める者よ、という高き声を聞けり。
モーセ7,26,またエノク、サタンを見たるに、サタンその手に大なる鎖を持ち、そは全地の面を暗黒もて覆えり。サタン仰いで大いに笑い彼に属ける使たち喜べり。
モーセ7,27,また、エノク天より降る天使らを見たり。これらの天使は父と子を証せり。而して聖霊多くの者に下り、これらの者天の力により捉えられてシオンに入れり。
モーセ7,28,天の神、遺る人々を見て泣きたもう。エノクその証をなして言う。如何なれば天泣きて山々に雨の降り注ぐ如く涙を流すや、と。
モーセ7,29,また、エノク主に申さく、主は聖くしてとこしえよりとこしえに在すに、如何なれば涙するを得るや。

モーセ7,30,人もしこの世界と言う微粒子、げにかくの如き幾100万の世界を数え得たりとすれば、そは主の造りたまひしものの数の始めにはあらざらん。然もなお且つ主のとばりはひろがれるなり。しかも主はかしこに在す、主の懷はかしこにあり、また主は正しく在す。主はと

モーセ7,30-1,恵み深く慈しみを施したもうなり。

モーセ7,31,主はシオンをその懷に取り去りたまえり。すべて主の創りたまひしものより永遠より永遠に取り去りたまえり。ただ平和と公正と真理のみ汝の御座の在所なり。また、慈愛は汝の御顔より出でて限りなし。如何なれば汝涙するを得るや。

モーセ7,32,主、エノク新しいたもう。見よ、これら汝の兄弟らを、彼らはわが手に成れる工なり。われ彼らを創りし日に彼らの知識を与え、エデンの園に於て人に彼の自由意志を与えたり。

モーセ7,33,而して、われ汝の兄弟たちに語りまた誠命を与えたい。すなわち汝ら互いに愛すべし、汝らの父なるわれを選びとるべし、と。されど見よ、彼ら何の愛情もなくして自らの血族を憎む。

モーセ7,34,されば、わが憤りの火は彼らに向かいて燃ゆるなり。われ烈しきもて洪水を彼らに出さんとす。わが激しき不興彼らに向いて燃ゆればなり。

モーセ7,35,見よ、われは神なり、"聖なる人"とはわが名なり、"議る者"とはわが名なり、また"永劫"と永遠とはわが名なり。

モーセ7,36,この故に、われはわが手を伸してわが創るところのすべての造られしものを支うるを得るなり。また、わが眼すべてのものを貫くに、わが手に成れるよろずの工の中に汝が兄弟らの中にある如き大いなる惡をいまだ見ざるなり。

モーセ7,37,されど見よ、彼らの罪は彼らの父の頭に帰すべし、サタンは彼らの父となり、不幸艱難は彼らの破滅とならん。さればすべて諸々の天も、わが手に成れるすべての工なるものも彼らの不幸を泣かむ。この故に、これらの為さるを見て天これが為に泣かざらむや。

モーセ7,38,されど見よ、汝の眼見るところの者たちは洪水の中に亡びなん。見よ、われ彼らを閉じ込むべし。彼らのために1つの囚屋を備えたり。

モーセ7,39,而してわが選びし所の者、わが甘えにとりなしをなせり。この故にその者彼らの罪のため苦しまん。彼ら"わが選びし者"のわが許に帰る火に悔い改むれば、その日に至るまで彼らは苦悩の中にあるべし。

モーセ7,40,これを以て、これが為に天もまた誠にわが手に成れすべての工なるものも共に泣かむ。

モーセ7,41,主、エノクに物言いて人の子らの為すわざをことごとく語りたまえり。この故にエノクこれを知りて人の子らの惡事と不幸なるさまを見て泣き、両の手をさし伸べて彼の心は永遠の如くにふくれ拡がり、彼のはらわたちぎれる思いしてすべて永遠なるものふるえ動けり。

モーセ7,42,エノクまたノアとその家族を見たり。すなわちノアのすべての息子たちのすえ、この世の救いもて救われんことを見たり。

モーセ7,43,この故にエノク、ノアの箱船を造るを見たり。また、主これをみて打ち笑み、その御手の中にこれを支えたもうを見たり。されど惡しき者たちの残れる者に洪水来りてかれらを呑みつくせり。

モーセ7,44,されど、エノクこれを見し時、身も靈も辛きを覚え、彼の兄弟たちのことを泣きて天に告げて曰く、われ何としても慰さめるを欲せず、と。されど主エノクに言いたまわく、汝心をはげまして喜び、且つ見よ、と。

モーセ7,45,エノクは見たり。ノアよりしてこの世に於けるすべての族を見たり。彼、主に叫びて言えり。主の日来るは何時なるや。何時の日"義しき者"の血流されて、すべて歎き悲しむ者聖くせられ永遠の生命を得るや、と。

モーセ7,46,主宣く、そは"時の絶頂"、邪曲と応報の時代に来るべし。

モーセ7,47,見よエノクは見たり。"人の子"誠に肉体をとりて来る日を見たり。彼は身も靈も喜びて言えり。義しき者は挙げられ"子羊"は創世の前より殺さる。われは信仰によりて父の懷にあり、見よ、シオンはわれと共にあり、と。

モーセ7,48,エノク地の面を見たるに、地の中より呼わる1つの声を聞けり。曰く、禍なるかな、われは禍なるかな、人間の母なるものよ。われは苦しめり、われは疲れたり、わが子供らの邪曲なるによる、何時の日われ休息せむ。何時の日われより出でたる穢れより潔めらるや。

モーセ7,48-1,われの創り主われを聖めたまいて、われ休息に入り且つ暫しの間わが面の上に正義の留るや。

モーセ7,49,エノク地の嘆きを危機し時、彼泣きて主に叫びて申さく、おお主よ、地を憐みたまわすや。ノアの子供らを祝したまわすや。

モーセ7,50,エノクなお主に祈りつづけて申さく、おお主よ、汝の生みたまえる独子、すなわちイエス・キリストの御名によりて願ひ奉る。ノアとそのすえに恵を垂れたまいて、地が2度と洪水もて覆われざらんことを。

モーセ7,51,主、抑うる能わずしてエノクと誓約を為し、洪水を留め、ノアの子供らを呼ばんと誓を為したまえり。

モーセ7,52,また主、變改すべからざる勅を出したまい、彼の子孫の残れる者はこの世の或る限り常に万国の民の中に見出さるべしと言いたまえり。

モーセ7,53,また主言いたもう、そのすえより救世主の出ずる者よ幸福あれ。そは、われは救世主なり、シオンの王

なり、永遠の如く広き天の岩なり、何人にて門より入り来りわれによりて昇者は決して倒ることなし。これを以て、わが語りしmnoたちは幸福なるかな、彼らは

モーセ7,53-1,喜びの歌を唱いて出で来ればなり、と彼言えばなり、と。

モーセ7,54,エノク主に叫びて申さく、何時の日”人の子”肉体にて来りたまひ、地は休息に入るや、願わくは、これらの事を示したまへと。

モーセ7,55,主、エノクに宣く、見よ、と。エノク見たるに、人の仕方にならいて十字架に挙げられたる”人の子”を見たり。

モーセ7,56,而して、エノク高き一声を聞くに天覆われ、神の創りたもう万物嘆き、地はうめきの声を出し、岩は裂け、聖徒たちはよみがえりて栄の冠を着け”人の子”の右に在りて栄えを受けたり。

モーセ7,57,また、囚屋の中にありしすべての霊出で来りて神の右に立ちぬ。のこりし者は、大いなる日の審判来るまで暗黒の鎖につながれて残されたり。

モーセ7,58,エノクまた泣きて、主に叫びて言いは、何時の日地は休息に入るべきか。

モーセ7,59,エノク”人の子”の昇りて御父の御許に至りたもうを見たり。エノク主を呼びて言いは、汝再びこの地に来りたまわずや。汝は神にましませばわれ汝を知れり、汝われに誓をなしたまい、われに汝の生みたまえる独子の名によりて願うべしと命じたまえり。汝われを

モーセ7,59-1,たまえり。われに汝御座に至る権を与えたまえり。これ、われによりてにあらず、汝の賜える恩恵による。これを以て、汝再びこの地上に来りたまわずやと尋ね奉る。

モーセ7,60,主、エノクに宣く、われ生くる如く誠にわれ終末の世に来るべし、邪曲と応報の世に来りて、ノアの子らに就きてわが汝に為せる誓を果さん。されど、その日の来る前に天は暗くなり、暗黒のとばり地を覆わん。天も地もゆる動くべし。また大いなる艱難人の子らの中に

モーセ7,60-1,われはわが民を護るべし。

モーセ7,61,われ天より正義を地に下さん。われ地より真理を出してわが生みたる独子の証となし死人の中より彼の復活せる証となし、誠にまたすべての人々の復活の証となすべし。われまた正義と真理とをして洪水の如く地をあらゐ去り地の4極よりわが賤民を集めて、わが備うべ

モーセ7,61-1,都に至らしめん。こは、わが民をして腰に帯しわが来る時を待ち望ましめんためなり。わが幕屋はその地にあるべし。而して、そはシオン、すなわち新エルサレムと呼ばれん。

モーセ7,62,また主、エノクに言いたもう。それより汝とすべて汝の市の者は、わが賤民とその地にて逢わん。而してわれら、彼らをわれらの懷に受け入るべし。かくて彼ら、われらと相見ん。われら彼らの首を抱き彼らわれらの首を抱きて互いに口づけせん。

モーセ7,63,而して、わが住む所あらん、そはシオンは、わが造りしすべての造られし物より出で来るべく、1,000年の間地は休息を得ん。

モーセ7,64,エノクは見たり、末の世に”人の子”の来りたもう日を。”人の子”はこの日來りて1,000年の間正義の中に地上に住みたもう。

モーセ7,66,されど、その日の前にエノクは悪人の中にある大いなる艱難を見たり。またエノク海も見たるに、そは荒れ騒ぎたり。また人々落ちて悪人の上に振りかかるべき全能の神の審判の来るを怖れながら待つを見たり。

モーセ7,67,主は、エノクにすべてのものを示したまえり。すなわち世の果までも示したまえり。されば、エノクは義しき者の日、彼らの贖いの時を見、完全なる喜びを受けたり。

モーセ7,68,而して、エノクの時代に於けるシオンの代はすべて300と65年なりき。

モーセ7,69,エノクとそのすべての民は神と共に歩めり。彼はシオンの真中に在りしに、シオン無くなりぬ。神これをとり挙げて、自らの懷に受入れたまいしが故なり。これよりして”シオン逃げたり”と言う言葉に出できたれり。

モーセ8,,高価なる真珠 モーセの著 第8章

モーセ8,*-,1830年12月、予言者ジョセフ・スミスに啓示されし書を誌す。(終)

モーセ8,1,エノクの寿命は、すべて430才なりき。

モーセ8,2,エノクの息子メツセラは、主がエノクに為したまいし誓約の成就せんため取り去られざりき。主はエノクと、誠にノアは彼の子孫より出ずと誓約したまいし故なり。

モーセ8,3,メツセラ予言して曰く、わが子孫より(ノアより)すべてこの世の王国出で来るべし、と。而して彼は栄を彼自らのものとせり。

モーセ8,4,さて、その地に大いなる飢饉出で来りぬ。主、甚しき咀いもて地を呪うたまいしかば地に住める多くの人たち死せり。

モーセ8,5,メツセラは187才にしてラメクを生めり。

モーセ8,6,ラメクを生みし後、メツセラ782才生きて息子娘たちを生めり。

モーセ8,7,メツセラの寿命は、すべて969才にしてこの齡に彼死せり。

モーセ8,8,タメクは182才にして1人の息子を生めり。

モーセ8,9,ラメクこの息子をノアと名づけて曰く、この息子、われらが業と、われらが手による労苦とに就きてわれらを慰むるところあるべし。主の咄いたまいし地のためにかくあるなり、と。

モーセ8,10,ラメクは、ノアを生みし後595才生き永らえて息子娘たちを生めり。

モーセ8,11,ラメクの寿命は、すべて777才にしてこの齡にかれ死せり。

モーセ8,12,ノアは、450才にしてヤペルを生めり。また42才の後ヤペルの母によりてセムを生めり。またノア500才の時ハムを生めり。

モーセ8,13,ノアとその息子たちは、主の言を聴きてこれを心に留めれば、彼らは神の息子たちと呼ばれたり。

モーセ8,14,而して、これらの人たち地の面に殖え始まりて、女の子たちこれらに生るに及べる時、人の子らこれらの女子の美しきを見てその好めるままに取りて妻とせり。

モーセ8,15,主ノアに宣いけるは、汝の息子たちの女子は自らを売り渡せり。見よ、わが怒りは人の子たちに向いて燃ゆ。彼らわが声を聴かんとせざればなり。

モーセ8,16,ノア予言をなし、神に属けることを太初にありたるままに教えたり。

モーセ8,17,主ノアに宣いけるは、わが”みたま”常には人を励まし彼はすべて肉ある者の必ず死ぬるを知るべければなり。されど、彼の寿命は120才なるべし。もし人悔い改めずんば、われ彼らに洪水を遣わさん。

モーセ8,18,この頃、著情に巨人ありき。巨人たちノアの生命を取らんとしてノアを求めしも、主、ノアと共に在して主のカノアの上にありき。

モーセ8,19,主はノアをその神権に按手聖任したまい、出で行き、エノクに教えられし如く人の子らに主の福音を宣べよ、と命じたまえり。

モーセ8,20,ノア、人の子らに悔い改めよと呼ばわりたるが、人々ノアの言を聴かざりき。

モーセ8,21,また、彼らノアの言う所を聞きし後、ノアの許に來りて言いけるは、見よ、われら神の子なり。人の女子らをめとりしにあらずや。今われら、飲み食いをなして、めとり嫁ぎつつあるにあらずや。然もわれらの妻は子を生みて、その子らは古えの人、大いなる名ある人と

モーセ8,21-1,勇士なり、と。かくて彼らノアの言を聴けざりき。

モーセ8,22,神、人の惡の地に大いになれると、すべての人その心の念の図るところ高ぶりて、常にただ惡しきのみを見たまえり。

モーセ8,23,ノア、民にその教えを説くことをつづけて曰く、聴けよ、わが言に心を留めよ。

モーセ8,24,信じて汝らの罪を悔い改め、誠にわれらの先祖の如く神の子イエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けよ。さらば聖霊を受けて、あらゆること汝らに明らかにせらるべし。もし汝らこれを為さざれば、洪水汝らの上に來らん、と。これらの言にもかかわらず彼ら

モーセ8,25,ノアそれを悔いて、その心は主地の上に人を造りたまいしにこれを心に憂いたもうを苦しめり。

モーセ8,26,主宣えり、われわが造りし人を地の面より亡ぼさん。人も獸も這うものも空の鳥にいたるまで亡ぼさん。わが厭かれつらを創り彼らを造りしをノア悔ゆればなり。彼らノアの生命をとらんと求めたれば、ノアわれを呼びたり。

モーセ8,27,かくの如く、ノア主の目の前に恵を得たり。ノアは義しき人にしてその世の完き者なりき。ノア神と共に歩めり。またセム、ヤペテの3人の子も然せり。

モーセ8,28,世は神の前に腐りて、暴力地に満ちたり。

モーセ8,29,神、世を見たまいしに、見よ、そは腐りたり。そは、すべての肉あるもの世に於けるその道を腐敗せしめたればなり。

モーセ8,30,神、ノアに宣いけるは、すべての肉あるものの終末わが前に近づけり。世は暴力に満ちたればなり。見よ、われすべての肉あるものを地よりほろぼし去るべし、と。

アブ1,,高価なる真珠 アブラハムの書

アブ1,*-,紙葦紙よりジョセフ・スミスの為せる翻訳

アブ1,*-1,エジプトの地下納骨堂より出でてわれらの手に入りしある古代記録の翻訳。アブラハム、エジプトに在りし時書きしものにして、アブラハムの書と呼ばる。紙葦紙の上に、アブラハム自ら誌したるものなり。わが教会の歴史、第2巻(235頁、236頁)(英文)を見

アブ1,*-1-1,348乃至351頁(英文)を見よ。

アブ1,,高価なる真珠 アブラハムの書 第1章

アブ1,1,カルデヤ人の地に於てわが父の居住せし所にて、われアブラハムはわが別に居住する所を得るの必要なるを知れり。

アブ1,2,また、わがために更に大いなる幸福と平安と安息とあるを知りたれば、われは先祖の祝福と、この祝福を他に施す職に按手聖任されんことを乞い求めたり。而して、われは義に随う者なりければ偉大なる知識ある者たらんと望み、義に随う更に大いなる者たらんこと、ま

アブ1,2-1,偉大なる知識を持ち多くの国民の父、平和の君たらんことを望み、また数々の教えを受けんこと、神の

誠命を守らんことを望みたれば、われは先祖に属ける権能を保つ正当の世嗣、大祭司となりたり。

アブ1,3,この権能は先祖よりわれに授けられたり。そは先祖より伝えられ、時の始めよりまことに太初よりすなわち創世の前より今日に至るまで伝えられしものなり。こは誠に長子の権能にして、最初の人すなわちわれらが最初の父なるアダムに授けられ、先祖を通じてわれに至

アブ1,4,われは、神が子孫に就きて先祖に与えられし任命に従い、われを神権者に任命したまわんことを乞い求めたり。

アブ1,5,わが先祖は、彼らの義と主なる彼らの神が与えおかれし数々の聖なる誠命より背き、異教徒の神々を礼拝して全くわが声に聴き従うを拒みたり。

アブ1,6,彼らの心は悪事に執着し、全くエルケナの神、リブナの神、マーメクラーの神、コラシの神、エジプト王パロの神に向きたり。

アブ1,7,この故に彼らは異教徒の犠牲に心を向けて、その物言わぬ偶像に彼らの子供たちを捧げ、わが声に聴き従わずしてエルケナの祭司の手によりわが生命を取らんと努めたり、エルケナの祭司はまたパロの祭司なりき。

アブ1,8,さて当時、これらの奇異なる神々に男女子供らを犠牲として、カルデヤの地に建てたる祭壇上に捧ぐるはエジプトの王なるパロの祭司の慣しなりき。

アブ1,9,パロの祭司はパロの神に犠牲を捧げ、またジャグリールの神にも犠牲を捧げたり。すなわち、彼はエジプト人の流儀によりてこれを為せり。さて、ジャグリールの神は太陽なりき。

アブ1,10,パロの祭司は、オリシエムの原頭ポテパルと言う丘の側に立てる祭壇の上に、1人の小児を捧げて感謝の犠牲にすらしたり。

アブ1,11,さてこの祭司はさきにこの祭壇上にて1時に3人の処女を犠牲にしたりき。この処女たちは、ハムの子孫より生れたる直系王族のすえの1人なるオニタの娘たちなり。この処女たちは、その節操によりて犠牲に供されたり。すなわちかれらは、木石より造りし神々に身を

アブ1,11-1,せざりしにより、この祭壇上にて殺されたり。殺されしは、エジプト人の流儀によりてなされたり。

アブ1,12,さて、この祭司らわれに暴力を振いて、この祭壇上にてこれらの処女たちを殺せし如くわれをもまた殺さんとせり。この祭壇に就きて知らんためには、この記録の始めにある絵図を見て覚るべし。

アブ1,13,祭壇は、カルデヤ人の中にて用いらる如き寝台の形に似て造られ、エルケナの神、リブナの神、マーマクラーの神、コラシの神またエジプトの王なるパロの神に似たる神の前にありたり。

アブ1,14,これらの神々に就きて理解するために、冒頭に於ける図型中にそのかたちを示し置けり。かくの如き風の図型を、カルデヤ人はラーリーノスと言う。神聖文字の意なり。

アブ1,15,祭司たち、われを犠牲に捧げてわが生命を取らんとし、その手をわが上い挙げし時、見よ、われ主なるわが神に声を挙げたるに、主わが声を耳にしてこれを聴きわれを全能の神の示現にて満したまい、御前に在る天使わが側に立ちて直ちにわが束縛を解きたり。

アブ1,16,而して、神の声われに至れり。アブラハム、アブラハム見よ、わが名はエホバなり。われ汝の祈りを聞き降り来れるは、汝を救い、また汝を父の家よりすべての親族より離して汝の知らざる他国に連れ行かんためなり。

アブ1,17,こは、彼らその心をわれよりよそに向けてエルケナの神、リブナの神、マーマクラーの神、コラシの神、エジプトの王なるパロを礼拝すればなり。この故に、われの降り来りしは、彼らの罪を報い、わが子アブラハムよ、汝の生命を取らんとしその手を汝に向けて挙げ

アブ1,17-1,亡ぼさんためなり。

アブ1,18,見よ、われ、わが手をもて汝を導かん。われ汝をとりて、汝にわが名、すなわち汝の父の神権を被らしむべし。さらば、わが力汝を覆いてあらん。

アブ1,19,ノアにありし如く、汝にもまた然あらん。されど汝が導きと教えを施す業によりて、わが名はとこしえにこの世に知らるべし。われは汝の神なればなり。

アブ1,20,見よ、ポテパルの丘はカルデヤの地にありき。主、エルケナの祭司土地の神々の祭壇を潰し、ことごとくこれらを亡ぼしてその祭司を打ちたまいしかば彼死せり。カルデヤに、またパロの宮廷に大いなる嘆きありき。このパロとは、王族の決闘による王の意なり。

アブ1,21,さてこのエジプトの王は、ハムの子孫より生れしすえにして、素性によればカナン人の血統を引きたる者なり。

アブ1,22,この子孫より、すべてのエジプト人出でたり。されば、カナン人の血統はこの地に保存せられたり。

アブ1,23,エジプトの地始めて1人の女によりて発見せられしがこの女はハムの娘にしてエジプトの娘なりき。エジプトとは、カルデヤ語にてエジプトを表し、これはまた禁ぜられしものなる意なり。

アブ1,24,この女がエジプトの地を発見せし時、そは水の下にありたれど、後にこの女はその息子らをこの地に定住せしめたり。かくて、咀いをその地に留めたるかの種族はハムより出で来りたり。

アブ1,25,さてエジプトの最初の政府は、ハムの娘なるエジプトの長男パロによりて樹てられ、そはハムの政府

の慣しによりて族長政治なりき。

アブ1,26,パロは義人なりければ、その王国を打ち建てて、生涯その民を賢明且つ公平に審き、最初の世代、すなわち最初の族長統治の時代に於ける先祖によりて樹てられたる制度にならわんことを熱心に努めたり。その制度とは、アダムの統治およびノアの統治の時代に於けるも

アブ1,26-1,ノアは彼の先祖にして彼を地の祝福と智恵の祝福とをもて祝したれど、神権い就つきては彼を咀いたり。

アブ1,27,さてパロは神権の権能を受ける能わざる血統なりしが、然もなおパロの1族はハムによりてノアよりその権能を受けたるふりをせり。この故に、わが父は彼らの偶像礼拝に誤られたり。

アブ1,28,されど、われは今後われ自らよりさかのぼりて創世の前に至る年代記を描かんと努むべし。そはわれがその記録を手に入れし故にして、今に至るまでこれを所有せり。

アブ1,29,さて、エルケナの祭司打たれて死せる後、その地に飢饉あるべしとカルデヤの地に就きてわれに語られし事など成就せられたり。

アブ1,30,よりて、飢饉カルデヤの地にすべて遍くして、わが父この飢饉によりて痛苦しみ、わが生命を取らんとしわれに対して心に決めたる悪事を悔いたり。

アブ1,31,されど、神権の権能に関する先祖すなわち族長らの記録は、主なるわが神わが手の中に守り置きたまいぬ。この故に創造の始まりの知識も、また諸々の遊星、諸々の星の知識もこれらが先祖に知られたるままわれ今日まで守り来れり。されば、わが後に来るべき子孫のた

アブ1,31-1,この記録にある若干かのことを努めてここに誌すべし。

アブ2,,高価なる真珠 アブラハムの書 第2章

アブ2,1,さて主なる神、ウルの地に飢饉を甚しくなせたまひければ、わが兄弟ハランこれがために死せり。されど、わが父テラはなおカルデヤ人の地なるウルの地に住めり。

アブ2,2,われアブラハム、サライを妻にめとり、わが兄弟ナホル、ミルカを妻にめとれり。サライとミルカとは共にハランの娘なりき。

アブ2,3,さて、さきに主われに言いたまひたりしは、アブラハム、汝の国を出で、汝の親族に別れ、汝の父の家を離れてわが汝に示さんとする地に至れ、と。

アブ2,4,この故に、カナンの地に行かんためわれカルデヤ人の地なるウルの地を後にせり。われわが兄弟の子トロとその妻およびわが妻サライを伴えり。また、わが父もハランとわれらが名づけたる地までわれらに附きて来れり。

アブ2,5,飢饉止みたれば、わが父はハランい留りそこに住まり。ハランには、多くの羊群ありたればなり。而して、わが父は再び偶像礼拝に戻りたればハランに引きつずき滞在せり。

アブ2,6,されど、われアブラハムとわが教愛の子ロトとは主に祈りたるに、主われに現われて宣いけるは、起て、ロトを汝に伴いて行け、われ汝をハランの地より携え出して、外国にわが名を持ち行く導きと教えを施す者とならんとすればなり。而してその国は、汝の末なる子孫

アブ2,6-1,聴き従う時はとこしえに所有としてこれに与えられん。

アブ2,7,われは、主なる汝の神なり。天はわが住い、地はわが足台なり。われ手を海の上に伸さば、海わが声に従う。われは風を起し、火をわが車となす。われ山々に向いて退けと言え、見よ、突如として旋風忽ち山々を取り去る。

アブ2,8,わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以て、わが手汝を覆わん。

アブ2,9,われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。

アブ2,10,われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は御名汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。

アブ2,11,われは汝を祝する者を祝し、汝を咀う者を咀わん。また汝(すなわち汝の神権)により、汝のすえ(すなわち汝の神権)による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて世界の眷族ことごとく祝福

アブ2,11-1,すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり。

アブ2,12,さて、主われと物言うことを止め、御顔をわが前より引き込ませたまひし後われ独り心に言えるよう、汝の僕汝を熱心に求めたるにより今や汝を見出しぬ。

アブ2,13,汝は汝の天使を遣わして、エルケナの神々よりわれを救いたまへり。われ汝の声に聴き従いて良く行わむ。この故に、汝の僕を起たせて平安に去らせたまえ、と。

アブ2,14,さればわれアブラハム、主おわれに語りたまひたりし言に従いて出発せり。ロトわれと共に在りたり。われアブラハム、ハランより出で立ちし時、62才なりき。

アブ2,15,われはカルデヤのウルに在りし時めとりしサライ、わが兄弟の子ロトおよびわれらが集めたるすべての所有と、ハランにて得たる人々とを携えて、カナンの地に行く途に出で来り旅の路にて天幕を張って住えり。

アブ2,16,この故に、ハラシよりジェルシオンを過ぎてカナンの地に至る旅路にありし時、永遠はわが蔽いにしてわが磐またわが救いなりき。

アブ2,17,さてわれアブラハム、ジェルシオンの地に於て1つの祭壇を築き主に犠牲を捧げて、わが父の家より飢饉転じて彼らの滅亡ざらんことを祈れり。

アブ2,18,それより、われらジェルシオンよりその地を通り過ぎてシケムの地に至れり。そはモレの平野にありて、われらすでにカナン人の住める地の境に入り込みたりき。われモレの平野に於て、主に犠牲を捧げて熱心に主を呼べり。そは、われらすでにこの邪神を拝む国民の地

アブ2,18-1,入り込みたればなり。

アブ2,19,主、わが祈りに応えてわれに現われ宣いけるは、われ汝のすえにこの地を与えん、と。

アブ2,20,われアブラハム、先に主のために建てたりし祭壇の所より起ちて、そこよりベテルの東なる1つの山に移りてわが天幕を張れり。西にはベテル、東にはアイありき。われそこにて主のために別の祭壇を築き、主の御名を再び呼ばわりき。

アブ2,21,われアブラハム、旅をなしなお進みて南の方に行けり。然るに、その地に引きつずき飢饉ありければ、われアブラハム、エジプトにとどまらんため、かしこに下らんと定めたり。さは、飢饉その地に甚しかりければなり。

アブ2,22,われ近く来りてエジプトに入らんとする時、主われに宣いけるは、見よ、汝の妻サライはこれを見るにまことに麗しき女なり。

アブ2,23,この故に、エジプト人サライを見る時、これは汝の妻なりと言いて汝を殺さん。されど、彼らサライを生しおかん。されば汝かならずかくの如くなせ。

アブ2,24,サライをして、エジプト人に汝の妹なりと言わしめよ。さらば汝は生きんと。

アブ2,25,われアブラハムわが妻サライに、すべて主の語りたまひし言に従いて語れり。すなわちこの故に、請う汝わが妹なりと彼らに言え、さらばわれ汝の故により安らかにしてわれは汝のために生きん、と。

アブ3,,高価なる真珠 アブラハムの書 第3章

アブ3,1,われアブラハムは"ウリムとトミム"を有ちたり。こはカルデヤ人の地なるウルに於て、主なるわが神の与えたまひたりしものなり。

アブ3,2,われ数々の星を見たりしに、それらの星甚大きくして、1つの星神の御座の最も近くにありき。また、多くの大いなる星ありてその近くにありたり。

アブ3,3,主われに宣いけるは、これらは他の星を支配する星にして、かのおおいなる星はわれの近くにあればその名をコロブと言う。われは主なる汝の神なればなり。われは、これを置きて汝の今その上に立つ星と同じ系統に属するすべての星を治めしむ。

アブ3,4,主、"ウリムとトミム"によりわれに宣いけるは、コロブはその廻転によりて生ずる時と季とによれば主の場合と同様なり。また、コロブの1廻転は、主お計算によれば主の1日なり。而してこれは汝の今立つところのものに定められたる時に従えば1,000年に当る

アブ3,4-1,これコロブの計算による主の時の計算なりとす。

アブ3,5,また、主われに宣いけるは、太陰と言う遊星は、昼を支配し、夜さえ支配すべき星なるが、計算の点にては汝の立つ所のものより上位にあり、すなわち一層大いなり。こは系統により一そう遅く廻点すればなり。こは秩序なり、そは太陰は汝の立つところの地より上位に

アブ3,5-1,従ってその時の計算はその日と月と年の数ほどに多からず。

アブ3,6,主われに宣いけるは、さてアブラハム、これら2つの事実ありて存す。見よ、汝の眼それを見るなり。汝に計算による時と、定まりたる時とを知らしむ。定まりたる時とは、誠に汝の立つところの地に属ける定まりたる時、日を支配すべく定められたる太陽に属ける定ま

アブ3,6-1,夜を支配すべく定められたる太陰に属ける定まりたる時なり。

アブ3,7,さて、太陰に属ける定まりたる時は、汝の立てる地の時の計算よりも、その計算に就きては長き時なり。

アブ3,8,而して、これら2つの事実存する所にはこれ以上にまた別の事実あるべし。すなわち、また別の星ありてその時の計算は更に長きことあらん。

アブ3,9,かくの如く1つの星の時の計算、別の星のそれよりも上位にありて、ついに汝コロブに近づくに至らん。このコロブは主の時の計算に等しく、このコロブは神の御座の近くに置かれ、汝の立つところのものと同様の系統に属けるすべての星を支配するなり。

アブ3,10,而して汝は光を与うるために置かれたるすべての星に属ける定まりたる時を知りて、ついに神の御座に近づかん。

アブ3,11,かくの如く、われアブラハム、1人の人の別の人に語る如く主と顔と顔を合せて語りぬ。主、その御手に成る工をわれに語りたまえり。

アブ3,12,主、われに宣えり。わが子よ、わが子よ(かく言いて御手を伸したまえり)、見よ、われ汝にこれらのすべてを示さん。主、その手をわが眼に置きたまいけるに、われ主の御手に成る工を見たところそは数多くありたり。而して、そはわが眼の前に殖え増してその極を

アブ3,12-1,ざりき。

アブ3,13,主、われに宣えり。これはシネハにして太陽なり。また言いたもう。ココブ、これは星なり。また言いたもう。オレア、これは太陰なり。また言いたもう。コカウビーム、これは諸々の星、または天の大空にあるすべての大いなる光の意なり、と。

アブ3,14,主、これらの言をわれに語りたまえる時は夜なりき。主宣く、われ汝を殖し、また汝の後に来る汝のすえを殖してこれらのものの如くにせん。汝もし砂の数を数うることを得ば、汝のすえの数もその如く数えらるべし。

アブ3,15,主、われに宣いけるは、アブラハムよ、われ汝がすべてこれらの言を宣べんため、汝がエジプトに入るに先だちこれらのものを見るなり。

アブ3,16,もし2つの事ありて、1は他よりも上にあらば、またこれら2つよりも更に大いなるもの他にあるべし。されば汝が見たるすべてのコカウビームの中、コロブは最も大いなり。そは、われに最も近きにあるがためなり。

アブ3,17,さて、もし2つのものありて、1は他よりも上にあり。而して太陰は他よりも上にあらば、恐らく1つの遊星または星にして太陰よりも上にあるものあるべし。主なる汝の神は、ただ為さんと欲したもうこと以外に為さんと心に掛たもうことなし。

アブ3,18,然はあれども、主は更に大いなる星を創りたまえり。またその如く、もしも2つの霊ありて1は他よりも智恵に勝れたりとするも、これら2つの霊は、1は他よりも智恵勝れたるにもかかわらずなお始めと言うものなし。これらの霊は前より存在せり。彼らは終りなし彼

アブ3,18-1,在らん。彼らはグノラウム、すなわち永遠なればなり。

アブ3,19,主、われに宣く、現にこれら2つの事実ありて存す。すなわち2つの霊あり。1は他よりも智恵勝れたり。これらよりも更に智恵勝れたる別の霊あるべし。されど、われは主なる汝の神なれば、われはそれらのすべてよりも智恵勝れたり。

アブ3,20,主なる汝の神、天使を遣わして汝をエルケナの祭司より救い出したり。

アブ3,21,われは彼らすべての真中に住えり。故に今われ汝に降り来りてわが手に成れる工を汝にわたす。わが智恵は彼らすべてに勝る。われは上は諸天を支配し、下は地を支配し、あらゆる智恵に於て思慮に於て汝の太初より見たところのすべての英智たちに勝ればなり。われ

アブ3,21-1,汝の見たるすべての英智たちの中に降り来れり。

アブ3,22,さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。

アブ3,23,神、これらの霊を善しと見たまい、これらの霊の中に立ちて言いたまえり、これらの者をわが統治者となさん。神、霊なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまいたればなり。而して、神われに言いたまいけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の1人なり。

アブ3,23-1,生れざる前に選ばれたり、と。

アブ3,24,これらの者の中に、神の如き者1人立ちて共に在りし者たちに言いけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。

アブ3,25,而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

アブ3,26,而して、最初の位を保つ者は更に付け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つものと同じ王国にて栄えを得ることなからん。而して、第2の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられん。

アブ3,27,主、宣いけるは、われ誰を遣わさんか。1人、"人の子"の如くに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の1人答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。

アブ3,28,而して、第2の者怒りて、その第1の位を保たず。而してその火多くの者たち彼の後に従えり。

アブ4,,高価なる真珠 アブラハムの書 第4章

アブ4,1,然り而して、主宣いけるは、いざわれら降り行かん。神々最初に降り行きたまえり。而して彼ら、すなわち神々は、天と地とを組織し形造りたまえり。

アブ4,2,而して、地は形造られし後、空しくして荒れ果てたる所なりき。神々ただ地よりほかに何物も形造りたまわざりければなり。暗黒は深き淵の面をおおい、神々の"みたま"水の面に覆いかかれり。

アブ4,3,彼ら(神々)光あれ、と言いたまいければ光ありき。

アブ4,4,彼ら(神々)光を含みたまえり。光は輝ければなり。神々、光を暗より分ち、また暗より分れしめたまえり。

アブ4,5,神々、光を昼と呼び、暗を夜と呼びたまえり。また彼ら夕より朝までを夜と呼び朝より夕までを昼と呼びたまえり。これ、彼らが昼夜と呼びたまえるものの第1、すなわち最初なりき。

アブ4,6,神々、また言いたまいけるは、水の唯中に広がりありて、水と水とを分たしめよ、と。
アブ4,7,而して、神々広がりて命じて、広がり下の水と、広がり上の水とを分つよう言いたまいけるに、誠にその命じたる如く成りぬ。
アブ4,8,神々その広がりを天と呼びたまえり。而して、夜と呼びたる夕より朝までありき。また昼と呼びたる朝より夕までありき。これ、夜昼と呼びたる第2の時なりき。
アブ4,9,また、神々命じて宣いけるは、天の下の水は1つ所に集りて地は乾上がれ、と。而して、彼らの命じたる如く成りぬ。
アブ4,10,神々乾ける地を陸と言ひ水の集れるを海と言いたまえり。而して、神々それらの従えるを觀たまえり。
アブ4,11,神々宣いけるは、いざわれら、地に青草と、種子を生ずる草と、その種類に従いて果物の生る果樹をはえさすよう備えをなすべし、而してこの樹の果物の種子は地上にそれとよく煮立るものを自ら生ずるものなり、と。而して彼らの命じたまいたる如く成りぬ。
アブ4,12,而して、神々地を組織して、その種子より青草と、その種子より生ずる草にしてその種類に従いて種子を生ずるものとはえさせたまえり。また地をして、その種子をして、その種子より生じて実を結び、またその種子はその種類に従いて自ら同じもののみを生じ得る樹
アブ4,12-1,はえさせたまえり。而して、神々これらの従えるを觀たまえり。
アブ4,13,神々日を数えて、夕より朝まで夜と呼び、朝より夕までを昼と呼びたまえり。これ第3の時なりき。
アブ4,14,また、神々大空に諸々の光を組織して昼を夜より分たしめ、またこれらを組織して、徴のため季節のため、日のため、年のためとならしめ、
アブ4,15,また、これらを組織して、大空にありて地を照す光とならしめたまえり。すなわちかく成りぬ。
アブ4,16,神々、2つの大なる光を組織して、大なる光に昼を司どらしめ、小さき光に夜を司どらしめたもう。また、小さき光と共に諸々の星も置きたまえり。
アブ4,17,神々、これを天の大空に置きて地を照らしさしめ、昼と夜とを司どらしめ、暗を光より分たしめたまえり。
アブ4,18,而して、神々、命じたるこれらのものの従うまで見守りたまえり。
アブ4,19,而して、夕より朝までなる夜ありき。また朝より夕までなる昼ありき。これ第4の時なり。
アブ4,20,神々宣いけるは、いざわれら、水に生命ありて動く生物を豊に生ずる備えをなさん。また地の上、天の大空の中に飛ばんため鳥をも然すべし、と。
アブ4,21,神々おおいなる鯨と種類に従いて水が豊に生ずべきあらゆる動く生物とを生ずる様水を備えたまえり。また種類に従いてあらゆる翼ある鳥を生じさせたまえり。神々彼らの従うを見、また神々の計画の善しきを見たまえり。
アブ4,22,神々宣いけるは、われら、彼らを祝福して、豊に子を産み殖えて海の水すなわち大海に充たしむべし。また鳥も地に殖えしむべし、と。
アブ4,23,夜と呼びし夕より朝までありき。また、昼と呼びし朝より夕までありき。これ第5の時なりき。
アブ4,24,神々生物をその種類に従いて生ずるよう地を備えたまえり。而して彼らの言いたまいたる如くなりぬ。
アブ4,25,而して、神々地が獣をその種類に従い、あらゆる這うものをその種類に従いて生ずるよう組織したまえり。而して神々かれらの従うを見たまえり。
アブ4,26,神々動詞議りて宣えり、いざわれら下り行きて、われつらのかたちにかたに象りてわれらの像の如くに人を創り、これに海の魚と空の鳥と家畜と全地と地に這うすべての這うものとを治めしめん、と。
アブ4,27,ここに於て、神々降りてその像の如くに人を組織したまえり。すなわち神々の像の如くにこれを造り、男と女に造りたまえり。
アブ4,28,神々宣いけるは、われら、彼らを祝福すべし、と。而して神々言いたまいけるは、われら彼らに豊かに生ましめて多くの子孫あらしめ、地に充たさしめて地を従わさせむ。また海の魚と空の鳥と地に動くすべての生物を治めしめん、と。
アブ4,29,また神々宣いけるは、見よ、われら全地の面に生ずる種子の成るすべての草と、実の成るすべての樹とをこれに与えん。誠に種子を生ずる樹の実を彼らに与えん。これは彼らの食物となるべし。
アブ4,30,また地のすべての獣と、空のすべての鳥と、地に這うすべてのものにと、見よ、われら生命を与えん。而してこれらに食物としてすべての青き草を与えん。而してこれらのことかくの如く組織せられん、と。
アブ4,31,また神々宣いけるは、われら言ひしすべての事を為してこれを組織せん。見よそれらはいと従順なるべし、と。而して、夜と呼びし夕より朝までありき。また昼と呼びし朝より夕までありき。神々第6の時を数えたまえり。
アブ5,,高価なる真珠 アブラハムの書 第5章
アブ5,1,われらかくの如く天地とその万群のことごとくを造り竣らむ。
アブ5,2,神々同志宣いけるは、第7の時にわれらの工を竣らむ。而して第7の時にわれらの議りたるすべてのわれらの工より休みなむ、と。
アブ5,3,神々第7の時ことごとく竣りたまえり。そは第7の時に、彼ら(神々)同志造らむと議りたるすべての工より

ミス1,10,また不法多くなるが故に多くの人の愛ひややかにあならん。
ミス1,11,されど最後まで固く立ちて、打ち勝たれざるものは救わるべし。
ミス1,12,この故に汝ら、エルサレムの滅亡につき予言者ダニエルによりて言われし'荒れす憎むべき者'を見ば、その時汝ら聖なる所に立つべし(読む者さとれ)。
ミス1,13,その時ユダヤに居る人々は山へ逃げこめ。
ミス1,14,屋上に居る者は逃げよ。而してその家の中より何物をも取出さんとて戻るな。
ミス1,15,畑に居る者もその着物を取らんとて帰るな。
ミス1,16,その日には、みごもりたる者と乳飲児に乳を飲ます者とは禍なるかな。
ミス1,17,故に汝らの逃ぐることの、冬にも安息日にも起らぬよう主に祈れ。
ミス1,18,その時、ユダヤ人とエルサレムに住む者に大いなるなやみあらん。イスラエルの王国の始めより今に至るまで嘗てかかるなやみのイスラエルい神より遣わされしことなし。否、この後にもまたイスラエルに遣わさるることあらじ。
ミス1,19,彼らに下るすべてのことは、やがておそい来らんとする悲しみの始めに過ぎず。
ミス1,20,もしその日少くせられずば、かれらは1人だに救わるることなからん。されど賤民のため、誓約に従いてその日少くせらるべし。
ミス1,21,見よ、ユダヤ人につき、われ汝らにこれらのことを言えり。またエルサレムにおそい来らんとするこれらの日のなやみの後、もし人ありて汝らに'見よ、キリストここにあり'或いは'かしこにあり'言うとも信ずるなかれ。
ミス1,22,その時また偽キリスト、偽予言者起こりて大いなる徴と不思議とを現わし、為し得べくんば、誓約によりて選民をも騙さんとするなり。
ミス1,23,見よ、われこれらのことを選民のために汝らに告ぐ。また汝ら戦争と戦争の噂とを聞かん。心して思い煩うなかれ。すべてわが汝らに告げしことは起らざるべからず。されど、いまだ終りにはあらず。
ミス1,24,見よ、われ前に汝らに告げたり。
ミス1,25,されば、人もし汝らに'見よ、彼は荒野にあり'言うとも出で行くな。'見よ、彼はひそかなる部屋にあり'と言うとも信ずるな。
ミス1,26,暁の光東よりさし出でて西の方まで光輝わたり全地をおおう如くにまた"人の子"も来るべし。
ミス1,27,われ今汝らに1つの譬を示さん。見よ、何所にてもしかばねのある所にはつねに驚寄り集る。かくの如くわが選民も地の4方より集められん。
ミス1,28,而して彼ら、戦争の噂とを聞くべし。
ミス1,29,見よ、われ、わが選民のために語るは、民は民に国は国に逆らいて立ち、また飢饉、疫病、地震とどこにあらんためなり。
ミス1,30,また不法多くなるが故に多くの者の愛ひややかにならん。されど、打ち勝たれざる者は救わるべし。
ミス1,31,また王国のこの福音は、すべての国民に証をなさんため全世界に宣べ伝えられん。而して後に、終りすなわち悪しき者の滅亡は至るべし。
ミス1,32,また予言者ダニエルによりて言われし'荒れす憎むべき者'はその言の如く実現すべし。
ミス1,33,これらの日のなやみの後、直ちに日は暗く月は光を放たず星は空より落ち天の力震動すべし。
ミス1,34,誠にわれ汝らに告ぐ、これらのことのゆくさき示さるる寄は、その過ぎ行く前にわが汝らに語りしことごとく成就すべし。
ミス1,35,天地の過ぎ行く時来るとも、わが言は過ぎ行くことなくしてことごとく成就せん。
ミス1,36,わが先に語りたりし如く、これらの日のなやみありて天の力震動したる後、そのとき"人の子"の兆天に現わるべし。その時地上の諸族みな嘆き、かつ能力と大いなる栄枯とをもて天の雲に乗り来る"人の子"を見ん。
ミス1,37,誰にてもわが言を宝とするものは騙さることなからん。人の子の来るや、その天使たちを大いなるラッパの音と共に彼に先立ちて遣わし、天使たちは天のこの極まで4方より選民の残れる者を寄せ集めん。
ミス1,38,それ、いちじくの樹の譬を学べ、その枝なお柔かにして葉めぐめば汝ら夏の近きを知る。
ミス1,39,かくの如く、わが選民よ。人々これらのことごとくを見ば、"人の子"すでに近づきて門辺に至ると知れ。
ミス1,40,されど、その日その時を知る者なし。天にある神の使たちも知らず、ただわが乳のみ知りたもう。
ミス1,41,されど、ノアの時にありし如く"人の子"の来る時にもまた然あるべし。
ミス1,42,洪水の前に時にありし如く、彼らにも然あるべし。ノアの箱船に入る日までは、人々飲み食い、めとり嫁ぎなどし、
ミス1,43,洪水の来りて彼らをことごとく取り去るまでは知らざりければなり。人の子の来るも然あるべし。
ミス1,44,その時録されたることは成就すべし。すなわち終りの日に2人畑に居らんに、1人は取られ他の1人は残さるべし。
ミス1,45,2人曰ひき居らんに、1人は取られ他の1人は残さるべし。
ミス1,46,われ1人に語るは、すべての者に語るなり。されば、目を覚し居れ。汝らは汝らの主の来るは何れの時

なるかを知らざればなり。

ミス1,47,されど汝らこれを知れ。家主もし盗人何れのころおい来るかを知らば、目を覚し居てその家を破らしめず備えを為し居らん。

ミス1,48,この故に汝らも備えをなし居るべし。”人の子”は思わぬ時に来ればなり。

ミス1,49,さらば主人が然るべき時に食物を与えさるために、その家の者たちを司どる者として立てたる忠実にして賢き僕は誰なるか。

ミス1,50,その主人の来る時、かくの如く為し居ることを見らる僕は幸福なり。誠に汝らに告ぐ、主人はその僕をして主人の所有物をことごとく司どる者となすべし。

ミス1,51,されど、もしかの悪しき僕おのが心の中に、わが主人の帰るはおそしと書いて、

ミス1,52,その同僚の僕らを叩き始め、酒のみたちと飲食を共にするならば、

ミス1,53,その僕の主人、待ち設けぬ日、気付かぬ時に来りて、

ミス1,54,これを寸断し、偽善者と同じくその受くる分を定めん。そこに嘆き齒がみすることあらん。

ミス1,55,かくの如く彼らはその民の中より絶たるべし。されど世の終りはいまだしといえども程なくあらん’と言えるモーセの予言に従いて悪しき者の終りは来るなり”。

ミス2, 高価なる真珠 ジョセフ・スミスの著 第2章 予言者ジョセフ・スミスの歴史より抜粋

ミス2,1,末日聖徒イエス・キリスト教会の起りと発展とに関し、悪意悪計ある人々によりて流布せられた多くの風説がある。而もこれらのすべては、その発頭人たちが当教会としての資格とその世の中に於ける発展とのために不利益となる様に企図したものであるから、すなわち

ミス2,1-1,この史実を筆にするに至った。私の目的は、これによって世上人心の疑惑をはらし、また、私自身と教会のふたつに関して起ったありのままの事実を、私自ら事件の真相を知る限り、あらゆる事件の真相を四郎とする者に知らせることである。

ミス2,2,この史実の中に於て、私は事件の真相を真実に且つ正しく、すなわち現在あるがままにこの教会に関する種々の事件を述べよう。今や、上記教会の組織以来第8年になった。

ミス2,3,私は種の1805年12月の23日、ヴァーモント州ウインソン郡シャロンの町で生れた。父ジョセフ・スミス(初代)はヴァーモント州を去ってニューヨーク州オンタリオ郡(今のウェイン郡)パルマイラに移ったが、その時私は10才位であった。父がパルマイラに

ミス2,3-1,到着してから約4年の内に、父は同じオンタリオ郡内のマンチェスターにその家族と共に引き移った。

ミス2,4,そして、父の家族は11人から成っていたが、それは父ジョセフ・スミス、母ルイ・スミス(母の結婚前の名は、ソロモン・マックの娘マック出逢った)、兄弟アルヴァン(1823年11月19日で死去)、ハイラム、私自身、サミュエル・ハリスン、ウィリヤム、ド

ミス2,4-1,カルロスおよび姉妹のソフロニヤ、カザリン、ルシイたちであった。

ミス2,5,私たちがマンチェスターに移ってから2年目のある時、私たちの住んで居た土地に宗教上の非常な騒ぎが起った。この騒ぎはまずメソジスト教徒から始まって、間もなくひろくその地方の全教派に及び、誠に地方全体がそれにとりつかれたようであった。大勢の群衆がこ

ミス2,5-1,いろいろな宗教的党派に分れ塊、これらはその人々の間に一方ならぬ騒ぎと仲間割れとを引起こして”ここを見よ”と叫ぶ者もあり、或者はメソジスト派の教義を擁護して論じ、また或者は長老派、浸礼派の教義を擁護して論じた。

ミス2,6,これらさまざまな信仰に転じた改宗者たちが、その改宗に当って言い表した偉大な愛と、またあらゆる人々を改宗させるために、牧師らが好んで言った言葉であるが、あらゆる人々をその好む教派に加入させるために、この宗教的感情がただ事ではなく興奮した場面を引起

ミス2,6-1,これを助成するに当って活潑な働きをした各牧師たちの示した偉大な熱心さとがあつたにも関わらず、しかも改宗者たちの或者は何派、或者は別の派と所属が定まり始めると、爆死たちも改宗者たちも、両者の示す表面上の好感情は真実と言うよりはむしろ偽装的と思わ

ミス2,6-1-1,それはこれに引きつずいて、牧師は牧師に向い改宗者に向って論争する1大混乱と反感の場面が起って、その結果すべてお互いの間の好感情は——もしいくらかでもそんなものが最初あつたとしても、今は全く言葉争いと所信の論争の中に蔭もなくなってしまったから

ミス2,7,私はこの時満14才を越えた才であったが、父の家族は長老教会派に改宗して、家族のうち4人、すなわち母のルシイ、兄弟のハイラムとサミュエル・ハリスンおよび姉のソフロニヤがこの教会に加入した。

ミス2,8,この大騒動の間に、私の心は深刻な反省を促がされまた非常な不安を感じた。しかし私の感情には痛切なまた折々胸をさすようなものがあつたにも関わらず、なお私はすべてこれらの連中から超然としておった。しかし、機会の許す度に彼らの催すいろいろな集りには集

ミス2,8-1,こうしている間に、私の心はややメソジスト派に傾き彼らに加わろうとする願望を何程か感じたが、何分いろいろな教派間の混乱と争闘が激しかったから、私のような年もゆかず世故にも長けていない者にとっては、

何人が正しく何人が間違っているかなどのしっかりし

スミス2,8-1-1,得ることはとてもできなかった。

スミス2,9,私の心は時々ひどくかき乱され、外の叫び声と騒ぎは非常なもので絶え間もなかった。長老派の信徒は浸礼派の信徒とメソジスト派の信徒に最も断乎反対し、あらゆる理屈ときべんと両つながらの力を用いて反対派の誤りを証明し、または少くとも世のいい反対派が誤っ

スミス2,9-1,思わせようとした。これに反して浸礼派の信徒とメソジスト派の信徒は、その代り自己の教理を打ち建てて他がことごとく誤っていることを証明しようと等しく熱心に努めた。

スミス2,10,この言葉の争いと信念の動揺の真最中に、私はしばしば自分の胸に問うた”私は何を為すべきか。すべてこれからのものが中、何人が正しいか。或いは彼らは共にことごとく間違っているか。もし彼らの中で誰かが正しいとするならば、それは何れであった、どうして

スミス2,10-1,わかるのか”と／。

スミス2,11,これらの宗教家連中の論争から引き起こされた極度にむづかしい事情の中で、私が心を苦しめて居るある日のこと、私は新約聖書ヤコブ書第1章第5節の”汝らの中もし智恵の欠くる者あらば、惜しむことなく、また咎むることなく、すべての人に与うる神に求むべし、

スミス2,11-1,さらば与えられん”という所を読んでいた。

スミス2,12,どの聖句にもまさって、この時ほどこの言葉が私の心に真に力強く迫って来たことはない。それは私の心の底と言う底を大きな力で貫き通すような気がした。私はこの言葉を再三再四思いめぐらして、もし誰か神よりの智恵を必要とするならば、正にそれは私であること

スミス2,12-1,なぜならばこの際私はどうしてよいか知らなかったし、当時の私の智恵よりもっと深い智恵が得られなかったなら私は為すべき方法を知らなかったからである。それと言うのも、種々な教派の宗教々師たちは、聖書の同じ章句をめいめい非常に異なって会食し、その結

スミス2,12-1-1,聖書に訴えて疑問を決しようとする信頼をことごとくうちこわしていたからである。

スミス2,13,とうとう私はこのまま暗黒と混乱の中に止まらねばならぬのか、それともヤコブの指図をする通り神に願わねばならぬのか、どちらかにせねばならぬという結論に達した。私はついに”神に願う”決心をして、もし神が智恵の欠けた者に智恵を与え、しかも惜むことなく

スミス2,13-1,こともないならば、ひとつ神に願ってみようと決めた。

スミス2,14,そこで神に願うと言うこの決心に従い、これを実行しようとして私は森の中へ人を避けて入り込んだ。それは1820年の早春、1点の雲もない美しい朝であった。このような企をしようとしたのは、私の生涯ではじめてであった。というのは私があれほど苦しんでいる

スミス2,14-1,でも、口に出して神に祈ろうとしたことはまだこれまでになかったからである。

スミス2,15,私は、前以て行こうと計画をして置いた場所へ人目を避けて入り込んでから、あたりを見廻して人気のないのを見ずまずとひざまずいて自分の心の願いを神に祈り始めたが、私が祈り始めるや否や、直ちに私は何とも知れぬ能力によって捉えられ、ついに私は全く抵抗力

スミス2,15-1,またその力は私の舌さえしびれる程の驚くべき力を振ったので私は物言うこともできなかった。そしてあたりはだんだん暗くなり、1時はあたかも私はこのまま急に死んでしまうかのように思われた。

スミス2,16,しかし、私は自分を捉えたこの敵の力から何とぞ逃れしめたまえと、全力を振りしぼって神を呼び求めたが、私が今にも絶望に打ち沈んでわが身を破滅に任せようとしたその瞬間、それは考えただけの滅亡というようなものではなく、目に見えぬ世界から来た何ともわか

スミス2,16-1,生き者で、全くこれまで私がどんな者に逢っても覚えたことのない程驚くべき強い力を具えた者の力に打ち負けて、わが身を見捨てようとしたその瞬間、この非常な驚きの瞬間である、私は自分の真上に太陽にも増して輝く1つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第

スミス2,16-1-1,きて、光はついに私の上にふり注いだ。

スミス2,17,その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留まった時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう2人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお1人が私に言をかけて私

スミス2,17-1,呼びたまひ、他のお1人を指して”こはわが愛子なり、彼に聞け”と仰せられた。

スミス2,18,私が主い伺おうとした目的は、私が何れに加入すべきかを知るためにすべての教派の中で何れが正しいかを知ることであった。それで私はわれに返って言葉が出せるようになるや否や、私の真上で光に包まれて立ちたもう御方に、すべてこれらの教派の中で何れが正しい

スミス2,18-1,私は何れに加わるべきかを伺った。

スミス2,19,ところがその御答に”汝はその何れにも加わるべからず、彼らことごとく誤れるを以てなり”と言いたもうた。そして、私に話かけたもうたその御方は”彼らの信条はことごとくわが目より見て悪むべきものなり。また彼ら信条を口にする者たちはことごとく腐敗せり。

ミス2,19-1,唇もてわれに近づけど、その心はわれに遠ざかれり。彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む”と宣うた。

ミス2,20,この御方は再び私にどの教派にも入ってはならぬと留めたまい、また他に多くの事を真実私に告げたもうたが、この度はそれを誌すことができない。私が再びわれに返った時に気がついて見ると、私は背を下にして横わり、天を仰いで居たのであった。光の去った時に、

ミス2,20-1,無かった。しかし間もなくやや恢復して家へ帰った。そして私が壁炉によりかかって居た時、母はどうかしたのかと私に尋ねた。私はこれに答えて”心配なさるな、万事よろし。何も悪いところなし”と言った。そしてそれから母に”私は今自分で長老派の教義は真実で

ミス2,20-1-1,知った”と言った。私が悪魔の王国の妨げを為す者と悩ます者いなると定められていた事は、私の生涯の極めて初期に悪魔が気付いたかのように思われる。そうでなければ、どうして、暗の力が聯合して私に逆らって来たのであるか。私がまだ幼い時に私に対して反対と

ミス2,20-1-1-1,起ったのは何故であるか。

ミス2,21,この示現を見た約23日の後、私は前に話した宗教上の騒ぎの際に非常に活動をしたメソジスト派の1教師とたまたま一しょになった。そして宗教上の問題に就いて話をしたついでに私は私が受けた示現について物語った。ところが私はこの教師の振舞に非常に驚いた。

ミス2,21-1,神と交通したことを素気なくあしらったのみならず、また非常に軽蔑して言った。そんなことは全く悪魔の仕わざである。今の時代に示現だの啓示だのというようなことがあるものか、すべてこのようなことは使徒の時代で終ったいる。もうこれから決してそのようなこ

ミス2,21-1-1,あるものかと。

ミス2,22,しかし、それから間もなく私がこの話を語ったことが、宗教を口にする者たちの間に私に対する大きな反感を引き起し、そしてこれがひどい迫害の原因であったことを私は悟った。そしてこの迫害はますます甚しくなっていく。私は一介の名もない少年であった。たつ

ミス2,22-1,を越えた年齢の少年でしかも生活状態から言っても何ら世間で取るに足らぬ程の者であったけれども、歴々の方々には私に反対して世上人を刺戟し、甚だしい迫害を引き起すほど私のことをわざわざ気にかけられた。しかも、これはすべての教派間に共通したことであった

ミス2,22-1-1,全部の教派が聯合して、私を迫害したのである。

ミス2,23,満14才を少し超えたような一介の少年であり、またその日の労働でようやく整形を得て行かねばならぬ運命におかれた1少年の私gあ、当時最も評判の教派に属する偉い方々の目を惹くほどの、また居わば、最もひどい迫害と悪口雑言をあびせようとする精神を彼らの

ミス2,23-1,引き起すほどの重要な人物と思われようとはいかにも不思議である、ということは当時私を本気に深く考えさせたそれ以来しばしば深く考えていることである。しかし不思議であろうがなかろうが事実は迫害と悪口雑言であった。そしてこのことは度々私自身にとって

ミス2,23-1-1,悲しみの種となった。

ミス2,24,然しながら、これにも関わらず私が先に示現を受けたことは事実である。あの時以来私は、パウロがアグリッパ王の面前に於て弁明し、彼が先に光を見声を聞いた示現の顛末を語った際、なお彼の言を信じた者がほとんどなく、ある者はかれは偽りを語ると言い、他の者

ミス2,24-1,狂えりと言った。そしてかれが嘲り笑われ悪口雑言を受けたその時自分は大へん似た心境であったと思っている。しかしながらすべてこれらの反対も、パウロが示現を得たと言う現実を打ち破らなかった。パウロは、先に示現を受けた。彼はこれを受けたと言う事実を身

ミス2,24-1-1,知った。そして天下のあらゆる迫害もこれを蛙ことができなかった。人がかれを死ぬまで迫害しようとも彼は知っていた。彼は最後の一息まで、彼が光を見、彼に呼びかける声を聞いたこの2つの事実を知っているであろう。事実、全世界も彼の考えを変え信ずるところ

ミス2,24-1-1-1,させることはできなかった。

ミス2,25,私も正にその通りであった。私は実際に光を見た。その光の唯中に2人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫

ミス2,25-1,偽ってあらゆる悪口をあびせている間に、私は自分の胸の中で語るようになった”何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ、私がどうして神に抗えようか。何故世の中の人々は、私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのが。

ミス2,25-1-1,受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。私は少なくとも、本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告

ミス2,25-1-1-1,ことを知っている”と。

ミス2,26,私は、今や教派社会に関する限りすでに心に満足を得た。すなわち、私はどう教派に属する義務もなく、おって神のお示しがあるまでこのままつづけて行けばよかったのである。私は、ヤコブの証が真実であることを悟った。すなわち”智恵に欠くる者あらば神に願うべ

ミス2,26-1,与えられ、然も咎めを受けざる”ことを。

ミス2,27,私1823年の9月21日まで平凡な世渡りをつづけて行った。しかしその間、私が示現を受けたと言い張ってやまないのが宗教家といわず宗教家でない人々といわず、あらゆる階級の人たちから始終ひどく迫害された。

ミス2,28,私が先に示現を受けてからこの1823年に至る間は、その当時の如何なる教派にも加入するを禁ぜられていた。そしてはなはだ未熟な年でもあり、また友達となって親切に私を待遇し、もし私が間違っていると思ったら、改心させる為には適当な而も愛情に充ちた

ミス2,28-1,空しくしてくれるのが当然であった人たちにかえって迫害されたものだから、私はあらゆる種類の誘惑を受けるままに任せられた。それで私はあらゆる種類お相手と交わり、度々愚な誤ちに陥り、若気の弱さと、人間のおろかさとを示した。そして遺憾ながらこれらのこと

ミス2,28-1-1,お目障りとなる種々な誘惑に私を誘いこんだ。然しこの告白を聞いて、私が何が罪かまたは憎むべき罪を犯したと思うには及ばない。私にはこのような罪を犯す性質は生来決してなかった。しかし、私は軽卒な行動を犯し、ある時は陽気な連中と交りなどし、先に私

ミス2,28-1-1-1,ように、神に召された者が当然保つべき正確と矛盾する行動をした。しかし、これは私の若い頃を回想し、また私の性来陽気な気質をよく知っている者には、甚しく不思議には思われないであろう。

ミス2,29,これらの結果私は度々自己の弱さと不完全さとを心中非常に悪いことであると思っていた。ところで、前に行った9月21日の夜である。私はもう寝ようと思って自分の寝室に入ってから、全能の神に対してすべて私の罪と愚な行いをお許しになるようい、また神の御前

ミス2,29-1,立場と状態とがどのようなものかお示し下さるようと、祈り且つ願い求めた。これは、以前に神の御顕れを受けたから、神の御示しを得る充分な確信があったからである。

ミス2,30,かように私が神を呼び求めている間に、私は室内に1種の光が現われるのをみつけた。その光は次第に明るさを増して、ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に1人のお方が空中に立って私の寝台の側に現われた。それは、そのお方の両足が床から離れて居た

ミス2,31,このお方は世にも妙なる白色のゆったりとした衣を着て居りたもうた。そして、その衣の白さと言えはいかなるこの世の白さをも絶した白さであった。また私はいかなるこの世のものも、あれほどに勝れて白く輝いて見せることができたとは思えない。このお方の手も腕

ミス2,31-1,あった、衣お袖は手首の少し上まで、またその足も露わであって衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭も首も露わであって、ゆったりした衣だけを着けておられるのを見つけることができた。そして胸のあたりははだかって、ふところまで見得るほどであった

ミス2,32,この衣服が世にも白かったのみならず、またこのお方の全身は筆にも口にも絶した輝きに充ち、御顔は誠いいなづまのように輝いていた。室内は非常に明るかったが、このお方のすぐ周りは特別によく光輝いていた。私が始めてこのお方を仰ぎ見た時は恐れを感じたが、

ミス2,32-1,恐れは去った。

ミス2,33,この御方は私の名を呼びたまひ”われは神お御前より汝に遣わされし者にしてわが名をモロナイと言ひ”、神は汝に1つの事を成し遂げさせんとし居りたもう”、また”汝の名は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民の中に善くも悪くも覚えられ、あら

ミス2,33-1,中に善くも悪くも語るべし”と言いたもうた。

ミス2,34,またこのお方は私に、アメリカ大陸の先住民の記録とその起源とを金版に刻んだ1部の書物が埋められてあって、その中に古代の住民に救い主がお伝えになったままの完全な永遠の福音が載せてある、と告げたまうた。

ミス2,35,また、銀のつるにはめた2個の宝石があつて金版と共に埋めてある。これらの宝石は1つの胸当に附けてあって、いわゆる”ウリムとトミム”を成す。そしてこれらを以て使った者が、古代すなわち先の時代の”聖見者”となったのであり、かの書物を翻訳するために神

ミス2,35-1,宝器を豫め備えて置きたもうたのである、と仰せになった。

ミス2,36,これらのことを私に言ってから旧約聖書にある予言を引用し始めたまい、最初にマラキ書第3章の1部を、次にまた世の聖書にあるとはいささか趣を異にするが、同じ善げnの書の第4章すなわち最後の書を引用したまい、世の聖書にあるような第1節を引用する代りに

ミス2,36-1,宣うた。

ミス2,37,すなわち”見よ、炉の如くに焼くる日来らん。すべてたかぶる者と悪を行ふ者はわらの如くに燃えん。そは来る者たち彼らを焼けばなり。万群の主は言う。彼らを焼きつくして根も枝も残らざらしめん”と。

スミ2,38,また次のように第5節を引用したもうた。すなわち”見よ、主の大いなるおそるべき日の来る前に、呼べん者エライジャの手によりて、われ神権を汝に顕さん”と。

スミ2,39,また次の切を少々言を変えて”彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わせしめん。もし然らずば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん”と宣うた。

スミ2,40,これらに付け加えて、イザヤ書第11章を引用してこの予言が將に成就しようとしていることを言われ、なおまた使徒行伝第3章、22および23節を全く世の新約聖書にある通りに引用したもうた末、ここに言う予言者とはキリストの御事である。しかしながら”この

スミ2,40-1,言を聴かざる者は、その民の中より絶たるべし”と言うその日はまだ来ていないがそれはすぐにも来るのであると仰せになった。

スミ2,41,さらにヨエル書第2章、28章から末節までを引用して”この事いまだ成就せずといえども間もなくあるべきなり”と。更に述べて”異邦人の時満つるは間近なり”と言いたもうた。この他多くの他の聖句を引用した多くの説き明したもうたが、ここにその事を挙げて

スミ2,41-1,できない。

スミ2,42,また宣うた”汝前にわが語りたるかの金版を得たる暁には——かの金版を得べき日は、いまだ実現せざればかく言うなり——これらの版は何人にも示すべからず。かの”ウリムとトミム”の附属せる胸当もまた然り。ただこれらを示すべしとわが命ずる者にもみ見す

スミ2,42-1,もし余人に見する時は汝滅ばさるべし”と。このお方が私にかの金版のことを話しておりたもう中に、私の心の中に示現が開けてきて、金版の埋めてある場所を見ることができた。しかも誠に明瞭に見ることを得たから、その後実際にその場へ行った時にはすぐにそれと

スミ2,43,このお方との交通が終ってから、私は室内の光が先ほどから私と話をして居りたもうたお方のすぐ身のまわりへ次第に集って行き始めるのを見た。次第次第に光は縮みつづけてついに室内は再び暗くなってしまったが、そのお方の体のすぐ周りだけは光り輝いていた。そ

スミ2,43-1,私は、あたかも1条の通路が突如天に向って開くと見たが、このお方はそれを昇って行ってついに全く姿が見えなくなり、室内はこの天来の光明が現われる前に暗黒に帰っていた。

スミ2,44,私はこの場の奇異な有様を冥想しつつ、またこの余の常でない使によって私に告げられた事を非常に驚きあやしんで横になって居たが、私が沈黙思考している最中に、突然また室の中が明るくなり出したのを見つけた。そして言わば突如として、また同じ天の使者が私の

スミ2,44-1,おられたのである。

スミ2,45,この使者は語り初めて最初に訪れた時に語ったところと全く同じ事を再び一言一言違えずくり変えて告げ、その後で私に飢饉、戦争、疫病などによる甚しい荒廃を伴って、この地上に今や来らんとする大いなる審判に就いて告げ、この悲しむべき審判が今の代に於て地

スミ2,45-1,ことを告げ、これらの事を述べ終ると先に通りにして再び天に昇って行きたもうた。

スミ2,46,今はもう心に受けた印象が余りに深かったため、眼はさえて眠れず私はこれまでに見たり聞いたりしたことにもたまたま驚きのあまり横になって居た。しかし、また私の床の側に同じ使者を見、その使者が前の通りにこの同じ事を私に一々くり変えてお話しになるのを聞

スミ2,46-1,私の驚きはいかばかりであったか。この使者は私に1つの警告をつけ加えて、私の父の家族は貧しいから、サタンが私を誘って金持になるためにかの金版を手に入れさせようと試みるであろうと言われた。また”かの金版を得るに就きては汝は神の栄光を現わす以外の目

スミ2,46-1-1,持つべからず、また神の王国を打建てんとする以外の動機に左右せらるべからず、然らずんば汝はかの版を手に入る能わず”と禁じて言いたもうた。

スミ2,47,この3度目の訪れを終ると、このお方は以前のように天に昇って行かれ、私はたった今経験した事の不思議さに一人思いを廻らして居った。この天の使者が3度目に私を離れて天に昇って行きたもうやほとんどすぐににわとりがときを告げたので、私はもはや暁も間近い

スミ2,47-1,知った。それであるから私は一晩中、天の使者と会見して居たに相違ない。

スミ2,48,私はそれからじきに寢床から律法、平常通りその日のせねばならぬ仕事に出かけて行つたが、いつもの日のように私語地にかかって見たものの私は全然仕事をする力がないほどからだが疲れているのに気が付いた。私と相並んで働いて居た父は、私の体工合が悪いと見て

スミ2,48-1,言った。そこで私は家へ行くつもりで出かけたが、私たちの居た畑から垣根を越して出ようとしている中に、全く疲れ果てて私はぐったりと地に倒れ暫くの間全然気を失っていた。

スミ2,49,始めて気がついたことは、私の名を呼んで話かける声がすることである。仰いで植えを眺めると、かの同じ使者が前のように光に包まれて私の頭上に立ちたもうのが見えた。それからこの使者は、また前夜私に話した通りのことをすっかり語り、父のところへ言って私の

スミ2,49-1,示現と私の受けた示現のことを語れと命じたもうた。

ミス2,50,私はこれに従った。私は畑に居た父のところへ帰って行って事情をすっかりくわしく物語った。すると父は私に、これはまさしく神ごとであると言ひ、その使者の言いつけ通に行つてせよ、と答えた。私は畑をさつて、さきに使者が告げてかの金版が埋めてあると言つた

ミス2,50-1,行つた。ところで、その場所はさきの示現の中でありありと見えたから、そこへ着くとその箇所がすぐにそこだと私にわかつた。

ミス2,51,ニューヨーク州、オンタリオ群、マンチェスターの村近くに、かなりの大きな丘があるが、それはその界わり切つての高い所である。この丘の頂上からあまり遠くない西側の所にかの大きな石があつて、その下にある1つの石の函の中にかの金版が置かれてあつた

ミス2,51-1,表面がなか高で円くへりに行くに従ひ薄くなつていたので、石の中央部は地上に現われていたが、へりの方はみな土で覆われていた。

ミス2,52,私はその土をとりつけてこを1本手に入れ、これを石のへりにさしこんでちよつと力を入れてこの石を持ち上げた。そして中をのぞき込むとはたしてかの使者が言われた通り金版、"ウリムとトミム"、胸当の3品がありと私の目に見えた。これらの品々が納つて

ミス2,52-1,1種のセメントを使って石を積み上げこれを箱に造つたもので、その函の底に横向きに2個の石が置かれ、この石の植えに金版やその他の品々がいっしょにのせてあつた。

ミス2,53,私はそれを函からとり出そうとしたが、あの使者にとめられた。この使者は私にこれらの品を呼に出す時節はまだ来ていない、またこの後4年たためとその時節が来ないと告げたもうた。しかし使者は私にその時からまる1年目の日にその場所へ来るように、そうすれば

ミス2,53-1,ここで私と逢うであらう。そうすれば使者もまたここで私と逢うであらう。そして金版を手に入れる時が来るまでは毎年そのことをつづけよと言われた。

ミス2,54,私は使者の言いつけ通り、まる1年目毎にそこへ行くと、その度毎に同じ使者がそこに居りたもうた。そして逢う度毎に主が為そうとしておりたもう事がらや、神の王国がどうして、またどんな風にこの末の呼においてこれから指導されて行くべきかに着いて、使者から

ミス2,54-1,通知を受けた。

ミス2,55,私の父の暮し向は非常に窮屈であつたから、私たちは自ら働かねばならなかつた。機会がある時には日傭の出かせぎやその他の働きをした。ある時は家で働き、ある時は外仕事を為し、絶え間なく働いてまず安樂に1家を養つて行くことができた。

ミス2,56,1824年に、私の父の1家は私の長男アルヴィンの死によって非常な困難に逢ひ、1825年の10月、私はニューヨーク、シェナゴ郡に住むジョサイヤ・ストールと言う老人方へ傭われた。この人は勝手ペンシルベニヤ州、サスケハナ郡、ハーモニーで、スペイン

ミス2,56-1,開発したある銀山について何事か聞き及んだので、私の傭入れに先立って出来得るならばその銀山を発見しようとしてその発掘をして居つた。私が言つて同居してから、この人は其余の使用人たちと共に私を銀山発掘の為に伴つた。私は引つづきこの仕事に1ヶ月近く従

ミス2,56-1-1,私たちの事業は不成功であつたからついに私はこの老紳士を説いて銀山発見のための発掘を止めさせた。私が銭堀りの山師であつたと現にひろく世に行われる話はこの事から起つたのである。

ミス2,57,以上のように傭われて居た間私はその地のアイザック・ヘルと言う人の家に下宿していた。私が今はわが妻であるヘル氏の娘エマ・ヘルと逢つたのはこの家である。1827年1月18日に私たちは結婚したが、その時私はまだアウトール氏に傭われて働いていた。

ミス2,58,私は常にあの示現を受けたと言ひ張つて止まなかつたので私の行く所にはなお迫害が伴つた。それで、私の妻の父の1家は私たちの結婚には非常に反対であつた。それで私は妻を他所に連れて行くほかはなかつたので、比所を出てニューヨーク州、シェナゴ郡、南ベイ

ミス2,58-1,タービル治安判事の家で結婚した。結婚するとすぐに私はストール氏の許を辞して私の父の家に帰り、その季節は父と共に農耕に従事した。

ミス2,59,その中にとつと、かの金版、"ウリムとトミム"、胸当の3品を手に入れる期日がやつて来た。1827年の9月22日、私はいつもの通り満1年目の日に、この品々の埋まっている場所へ行つた。ところ、あの同じ天の使者は次のような責任と共にこれらの品々を私

ミス2,59-1,渡した。すなわち、私はこの品々について保管の責任を持たねばならない。私が万一不注意が自己の怠慢によってこれを失うならば私は断ち滅ぼされる。しかし、私がもしこの使者がまたこの品々を取りに来たもう日まで全力を尽して保存するならば、これらの品々は護

ミス2,59-1-1,である、と言うのであつた。

ミス2,60,私は間もなくその品々を安全に保存するために何故使者がこのような厳しい責任を課したか、また私自身に要求された事が為し遂げられた暁に、使者がこれを取りに繰ぞと言いたもうたわけがわかつた。それは、私がその品々を手に入れたことが知れるや否や、すぐに私

ミス2,60-1,それを奪いとうとするあらん限りの努力が払われたからである。その目的を達する為に、あらゆる計画がめぐらされた。迫害はいよいよ激しくなり、多くの人々は隙あらば私の手からこれらの品を取ろうとたえずうかがった。しかし私に命ぜられた事がこれらによって

ミス2,60-1-1,までは、神の智慧によってこれらは安全に私の手中に在った。そしてかねての打合わせ通り使者がこれらを受け取りに来たもうた時、私はこれらの品を使者に引き渡した。それでそれらは1838年5月2日の今日に至までなお使者の御手の中にあるのである。

ミス2,61,しかし、騒ぎはなおも引きつずいて、私の父の家族と私自身とに就いて、ありもせぬことを世上に流布するためでありとあらゆる噂が始終話された。私がもしその1,000分の1を話したとしても優に大きな書物一杯になるであろう。しかしながら迫害がいよいよ堪え

ミス2,61-1,程になってきたので、私は止むを得ずマンチェスターを去って、妻と一しょにペンシルベニア州、サスケハナ郡へ行かねばならなかった。当時私たちはひどく貧乏であり迫害も甚しくなったから、ほかにどうする見込みもなくいよいよ出発しようと準備をして居る時、この

ミス2,61-1-1,最中にマーテン・ハリスと言う紳士の友情を受けた。この紳士は私の所へ来て、路銀の足しにと金50ドルを私に与えた。このハリス氏はニューヨーク州、ウェーン州、パルマイラ町に居住する相当な暮しの1農家であった。

ミス2,62,まことに都合の好い時に目られたので、私はペンシルベニア州の行き先に到着することができた。そしてそこに着くとすぐに私はかの金版からそれに刻んである文字を書き写しにかかった。私はそれらの文字からかなりの数を写しとり、"ウリムとトミム"によってそ

ミス2,62-1,いくばくかを翻訳した。私はこれを、12月に私が妻の父の家へ到着してから翌年の2月に至るまでの間にした。

ミス2,63,この2月のある時、先に書いたマーテン・ハリス氏が私たちの所へ来て、私が金版から書き取って置いた文字を手に入れ、これを持ってニューヨーク市へ発って行った。ハリス市とこの文字に関して起った出来事については、ハリス氏が同市から帰ってきて私に話した通

ミス2,63-1,事情に就いてハリス氏自身の語るところをお伝えする。それは次の通りであった。

ミス2,64,"私はニューヨーク市へ行って君が書き写して置いた文字を、その翻訳と一しょに、これを文学上の学識で有名な1紳士チャールス・アントン教授に提出した。アントン教授に提出した。アントン教授が言われるに、この翻訳は正確である、エジプト語から翻訳された

ミス2,64-1,これより正確なものをまだ見ないほどであると。そこで私はまだ翻訳していない文字を出して見せたところ、これらはエジプト語、カルデア語、アッシリア語およびアラビア語などで、またその文字も本当の文字であると言われて、教授はパルマイラの人々に宛ててこ

ミス2,64-1-1,2-内容? 文字は真正の文字にして、またこれらの文字より翻訳されてるものもまた正確なり'と言う1通の証明書を私に下さった。私はその証明書をしっかりとかくしに入れ、さて正に教授の家を立ち去ろうとした時アントン氏は私を呼び返して、その青年はその金版を見つ

ミス2,64-1-1-1,金版のあることがどうしてわかったかと聞かれるから、それは1人の神の使がその青年に在り個所を明したのであると言った。

ミス2,65,すると教授は'一寸、その証明書を見せて'と言われるから私はその言に従ってそれをかくしから取り出ししてお渡しすると、教授はこれを寸々に引裂いて'今時、天使が導きと恵を与えるなどと言うことがあるものか。私にその金版を持って来なさるならば翻訳してやる

ミス2,65-1,言われた。よって金版の1部分は封ぜられているし、また持って来ることをとめられている、と告げた。すると教授は'私は封じてある書物を読むことはできぬ'と言われた。そこで私は教授の言われた言葉を証人された"と....

ミス2,66,1829年4月の5日、オリヴァ・カウドリが私の所へやって来たが私はその時まで彼に逢ったことはなかった。彼は前から私の父の住んでいる所の近くの学校で教師をしているが、私の父も子供をその学校へやっている者の1人なので、1時私の父の家に下宿している

ミス2,66-1,言った。そして父の家に居る中に、家族の者から私が金版を手に入れた事情を聞いたので私の所へ事の次第を尋ねに来たのである、と。

ミス2,67,カウドリ氏が私の許に着いた2日後(4月の7日)に、私はモルモン経の翻訳にとりかかり、カウドリ氏は私の為に書き役を始めたのであった。

ミス2,68,私たちはなお翻訳の仕事を続けていたが、その翌月、すなわち1829年5月のある日、金版の翻訳中に言い及ばされたのを知った罪を赦すためにバプテスマに関し、主に祈り且つ尋ねるために私たちは森の中に入って行った。こうして私たちが主に祈り且つ主を呼び集

ミス2,68-1,うちに、1人の天からの使者が光の雲に包まれて天降り、私たちの頭上に両手を按き、次のように言って私たちに神権を授けたもうた。

スミ2,69,"汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロン神権を授く。こは天使の導きと恵、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時

スミ2,69-1,この世より決して再び取り去らるることなし"と、

スミ2,70,そしてこの使者は、このアロン神権は按手によって聖霊の賜を与える権能を有ってはいないが、かような神権は後から私たちに授けられると言い、今は行ってバプテスマを受けよと命じ、そして私が先にオリヴァ・カウドリにバプテスマを施し、その後で彼が私にバプテ

スミ2,70-1,施すべし、と指図をしたもうた。

スミ2,71,よて、私たちは行ってバプテスマを受けた。私は第1にオリヴァにバプテスマを施し、後で彼は私にバプテスマを施した。それから私は旅手を彼の頭上に按いて彼にアロン神権を授け、次に彼が両手を私の頭上に按いて私に同じくアロン神権を授けた。それは、かように

スミ2,71-1,命ぜられたからである。

スミ2,72,この時私たちを訪れて、この神権を私たちに授けたもうた使者はヨハネと名乗り、かの新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれるヨハネと同1人であると言い、自らはメルケゼデク神権の鍵を握るペテロ、ヤコブおよびヨハネの指示によって働く者である。このメル

スミ2,72-1,神権も時至らば私たちに授けられ、私は当教会の第1長老と呼ばれ、彼オリヴァ・カウドリは教会の第2の長老と呼ばれると言いたもうた。私たちがこの使者の手によって神権を授けられまたバプテスマを受けたのは、1829年5月15日であった。

スミ2,73,私たちがバプテスマを受けて水の中から上ると、すぐに私たちは天の父から受けた大きな光栄ある祝福を感じた。私がオリヴァ・カウドリにバプテスマを施すや否や、聖霊が彼にお降りになって彼は立ち上がり、間もなくこれから起るべき多くの事を予言した。また私が

スミ2,73-1,よってバプテスマを受けるや否や、私もまた予言の"みたま"に満たされて直ちに立ち上り、この教会の起りやその他この教会に関する多くのこと、今の代に於ける人の子らに関する事に就いて予言をした。私たちは聖霊に満たされ、私たちの救いの神を悦んだ。

スミ2,74,今や私たちの心眼は開けて、聖典の真の意味は私たちの理解力の前に開け放たれ始めた。そして一層奥深い意味を有つ章句の真意と真の意向が、今までに達し得たこともなくまたは考えても及ばなかったほどにはっきりと示された。この間にも、私たちの周囲に現われた

スミ2,74-1,精神があるため、私たちが神権を授かった事、バプテスマを受けた事などを秘密にせざるを得なかった。

スミ2,75,私たちは時々、暴徒におそわれる虞れがあったが、これもまた宗教を口にする者たちによってであった。そして彼らが私たちを襲おうとする意図も妻の父の家族の力によって(神の御摂理により)わずかに事なきを得た。妻の父の一家は、今私に非常に親しくなり、暴徒

スミ2,75-1,立ち、私が中途にて止めることなく遠慮なく翻訳の仕事をつづけることをよろこんだ。それで妻の父の一家は、すべての非合法的行為から出来る限り私たちを保護すると申し出てこれを約束した。

オリウ1,1,オリヴァ・カウドリはこれらの出来事を次の如くに記述せり。__この旨のこよなき感謝を目覚めさせたる、天来の靈感が命ずるままに語る声を耳にして座せんとは、こは決して忘れられぬ日々なりき。"モルモン経"と言う歴史すなわち記録を、ニーファイ人の解訳器と

オリウ1,1-1,"ウリムとトミム"によりて彼が翻訳するままに口ずから語るを予は毎日絶え間なく書きつづけたり。かつて天より愛せられ恵まれたる1国民につきて、モルモンとその忠実なる息子モロナイの誌したる興味ある記事を、もしも予が僅に数語なりとも読者に知らすならば

オリウ1,1-1-1,る計画は不用とならむ。さればこの話は後日に譲り、予がはしがきにて言いたる如く、この教会の起りにつきて具体的に関係のある若干の事件へ一層直ぐに移らんとす。そは頑迷なる人々のしかめ顔と偽善者らの中傷の唯中に進み行きて、キリストの福音を受け入れたる

オリウ1,1-1-1-1,とりては興味あることならむ。人類がキリストの教会を設立すべき精確なる方法につき、救い主の口よりニーファイ人に語られたる命令を翻訳して書き誌すことは、イエス・キリストの復活による善き強震に応うるために水の墓に埋められて進んで事に当る心を示す特権

オリウ1,1-1-1-1-1,くしては、真面目なる考えにて何人にも不可能なりき。人類の中に行わるるすべての形式と体系との上に、頽廢によりて不確実なるものがはびこりたりし時に於ては特に然り。このアメリカ大陸に於けるヤコブのすえの遺れる者たちに、救い主の爲したまいし福音の御業

オリウ1,1-1-1-1-1-1,たる話を予が書き誌してよりは、予言者がかくならむと言ひし如く暗黒この世を覆い、漆黒の闇民の心を覆うは容易に見られたり。更に深く考うるに、宗教い関する大いなる争いと騒ぎの唯中に於て、何人も福音の儀式を失効する神よりの権能を有たざりしは容易に見ら

オリウ1,2,キリストの証が予言の"みたま"にほかならず、またキリストの教会が、これまでキリストが地上に1つの民

を持ちたまひしこの世のすべての時代に於て、直接の啓示によりて基を置かれ設立され支えられたる時に、啓示をしりぞくる人々がキリストの御名によりて儀式

オリウ1,2-1,能ありや、との疑問起るべければなり。

オリウ1,3,キリストの教会に関する事実が埋められ、これが1度明らかに人眼につくを許されしならばその悪企みの危くなりしならむ人々がこれを注意深く隠したりとも、これらの事実はもはやわれらに隠されたるにあらず。されば、われらは”起ちてバプテスマを受けよ”と命ぜ

オリウ1,3-1,のみなりき。されど、こは永く望む間もなく実現せり。恩恵に富みたまい、へり下る者の堅実なる祈りに常に喜びて応えたもう主は、われらが人間の住家を離れて熱烈に呼び求めしに懇ろにその御旨をわれらに示したまえり。突如永遠の唯中より来るが如く、贖い主の御

オリウ1,3-1-1,平安を告げたまえり。帳りの2つに別ると同時に神の使栄光に包まれて天降り、熱心に求めたる音ずれと悔改めの福音の鍵とをわれらに渡したまいたり。何たる悦び何たる驚異何たる驚きぞ。世の人の悩み迷いし時、幾百万の人々盲人の如く壁を手探りせる時、すべて

オリウ1,3-1-1-1,〈大衆として不確実なるものを頼みにしたる時、烈日の下に於ける如くに否それ以上、当時万象の上に光を注ぎし5月の非の光輝にも勝りてわれらの眼は見ぬ、われらの耳は聞きぬ。

オリウ1,4,その時、天使の御声柔くはあれども心の其所まで貫きぬ。その御言に曰く”われは汝らと同じ業に働く僕なり”と。この御声にことごとく怖れは去りぬ。われら耳傾けぬ。われら仰ぎ見ぬ。われら嘆美しぬ。こは天使の御声なりき、栄光より来る御声、いと高き神より来

オリウ1,4-1,き。その声を聞きて、われら悦びぬ。同時に神の愛は、われらの心に火を点じ、われら全能の神の示現に包まれぬ。何の疑い余地ありや、何所にもなし。不確実は消え失せたり。疑いは沈みてもはや浮かぶことなし、同時に虚構と欺偽はとこしえに逃げ去りぬ。

オリウ1,5,されど、兄弟よ、考えよ。暫し、更に深く考えよ。天使の”汝ら、われと同じ業に働く僕らよ、救世主の御名によりてわれ汝らにこの神権とこの権能とを授く。而してこれらは、レビの子孫たちが今なお義しきに適いて主に捧物を捧げんためにこの世に留まるべし”と言

オリウ1,5-1,よりわれらに聖き神権を授けたまひし時(何人か、かかる祝福を受けてひざをかがめざりし者ありや)如何なる喜びかわが胸を充したる。如何に驚きてわれら首領を下げしに相違なかりし。この心の感情も、またこの場合にわれらを包みし莊嚴なる美と栄光も、予は諸君

オリウ1,5-1-1,とはせざるべし。されど、雄弁なる時を以てしても世界も人類もともにこの聖なる御方の如くに人の心を惹きつけ、崇高なる念に充ちて真理を言に言い表せる様に成ること能わず、とわれ言えば諸君は予を信じたもうべし。否この世も、かの喜びを与え、かの平和を授け

オリウ1,5-1-1-1,の力によりて述べられしままの1つ1つの金言に含まるる智慧を悟る力なし。人はその同僚たちを欺くことあらむ。詐欺は詐欺を生まむ。悪しき者の子らは、愚者と無学なる者とを誤らしむる力を持つこともあらむ。而してついにただ虚構のみ多くの者の腹を肥し、偽り

オリウ1,5-1-1-1-1,流れに迂闊者を乗せて墓場へと運ぶ。されど、1度その愛の御指を触れたまえば、然り、天井の世界より御栄の光明1筋来らば、すなわち、永遠のふところより、救い主の口より1言出ずれば、すべてこれらのものを無意味とならしめ永遠に人の心より消し去りたもう。

オリウ1,5-1-1-1-1-1,天使の御前にありしと言う確信、すなわちイエスの御声を聞きしと言う確さ、また神の御旨の命じたまひしものなれど、聖き御方より流れ出でしままの汚れなき真理は、われにとりて口にも筆にも尽し難し。わがこの世に留るを許さる間は、常に驚嘆と感謝の念を以て

オリウ1,5-1-1-1-1-1-1,恩恵に現われを仰ぎまると。而して、われは完全の在りし罪の決して来らざる住家に於て、決して終りなきその曳に神を讃めんと欲す”。

オリウ1,6,(タイムズ、エンド、シーズズ。第2巻、201頁)

日1,,高価なる真珠 ジョセフ・スミス——日の光栄の王国に関する示現

日1,*-,1836年1月21日、オハイオ州カートランドの神殿において予言者ジョセフ・スミスに与えられた示現。エンダウメントの儀式の執行中にこの示現が与えられた。’教会歴史’第2巻380—81頁参照——日の光栄の王国に関する示現——死者の救いに関する

日1,*-,1,明らかいされる——子供はすべて日の光栄の王国において救われる。

日1,1,諸点が私たちに開かれ、私は神の日の光栄の王国とその栄光とを見た。それが肉体にあってのことか、それとも肉体を離れてのことなのかは定かでない。

日1,2,私はその王国を受け継ぐ者たちが入るこの上なく美しい門を見た。それは、あたかも炎の輪のようであった。

日1,3,また、輝く神の御座があって、そこに御父と御子が座しておられるのを見た。

日1,4,私はその王国の美しい街路を見た。それは金を敷きつめたかのようであった。

日1,5,私は父祖アダムとアブラハムを見た。また、私の父と母、この世を去って久しい兄のアルビンを見た。

日1,6,私は兄がなぜその王国で受く継ぎを得ているのか不思議に思った。兄がこの世を去ったとき、主はいまだ、イスラエルの第2の集合に着手しておられず、また兄自身罪の赦しを受けるためにバプテスマを受けていなかったからである。

日1,7,このため、主の声が私に臨んで言った。”この福音の知識なくして世を去り、もし世にとどまることを許されていれば福音を受け入れたであろうすべての人々は、神の日の栄光の王国を受け継ぐ者となるであろう。

日1,8,さらに、これより後も、福音の知識なくして世を去り、かつ世にとどまっておれば心から福音を受け入れたであろう人々はすべて、この王国を受け継ぐ者となるであろう。

日1,9,主なる私は、すべての人々をその行ないと心の望みに応じて裁くからである。”

日1,10,私はまた、自己の責任を知り得る年齢に達する前に世を去った子供たちがすべて、点の日の光栄の王国において救われているのを見た。

死1,,高価なる真珠 ジョセフ・F・スミス——死者の贖いに関する示現

死1,*-,1918年10月3日、ユタ州ソルトレーク・シティにおいてジョセフ・F・スミス大管長に与えられた示現。これは、主イエス・キリストが霊界を訪れた次第と死者の贖いの教義を明らかにするものである。——ジョセフ・F・スミス大管長はペテロの書簡および

死1,*-,1,訪れたもうたことについて思いをめぐらしていた——彼は、パラダイスに集っていた義人の霊とキリストがこれらの死者に導きと教えを施したもう様子を見た——霊たちの間に福音を宣べ伝える態勢が整えられる——この時代の義人の霊は霊界においてその働きを

死1,*-,1-1,行なう。

死1,1,1918年10月3日、私は自分の部屋にいて聖典の言葉に思いをはせ、

死1,2,世を贖うために神の御子が払われた大いなる贖いの犠牲と、

死1,3,贖い主の降臨にあたって御父と御子の表わされた大いなる驚嘆すべき愛について深く考えていた。

死1,4,人類は御子の贖罪により、また福音の諸原則に従うことにより、救いを得ることができるのである。

死1,5,このように思いをめぐらしていると、主が十字架上で亡くなられた後に福音が宣べ伝えられたポイント、ガラテヤ、カパドキヤ、その他アジアの各地で教会に加わった初期の聖徒らに宛てた使徒ペテロの書簡が心に浮かんできた。

死1,6,私は聖書を開いて、ペテロの第1の手紙の第3章と4章を読み始めた。そして、次の聖句いかつて経験したことがないほど強く心を動かされた。

死1,7,”キリストも、私たちを神のみ前に導くため、自らは義なる御方であるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のもたらす苦しみを受けられた。ただし、肉においては殺されたが、みたまによって生かされたのである。

死1,8,このため、彼は獄にいる霊たちのところに行き、教えを説かれた。

死1,9,これらの霊というのは、ノアの時代に箱船が造られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者たちのことである。その箱船に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに8名だけであった。”(欽定訳聖書ペテロの第1の手紙第3章18—20節)

死1,10,”このため、死人にも福音が宣べ伝えられた。それは、彼らが肉体においては人間として裁きを受けるが、霊においては神に従って生きようになるためである。”(欽定訳聖書ペテロの第1の手紙第4章6節)

死1,11,これらのことについて深く考えていると、主のみたまが私の上にとどまり、理解の眼が開かれた。そして、死者が、小さき者も大きな者も共に、群れをなしているのが見えた。

死1,12,おびただしい数の義人の霊がひとつ所に集まっていた。彼らは死すべき読にあった間イエスの証に忠実であった者たちであり、

死1,13,神の御子の大きな犠牲のひながたとしていけにえを捧げ、贖い主のみ名のゆえに艱難を受けた者たちであった。

死1,14,これらお者はすべて、父なる神と、御父の生みたまいし独り子イエス・キリストの恵みによりもたらされる栄えある復活に確固たる望みを抱きつつ世を去った者たちであった。

死1,15,私は彼らが歓喜に満ち、解き放たれる日が目前に迫っていることを共に喜んでのを見た。

死1,16,彼らは集まって、神の御子が霊界に来て死の縄目からの贖いを宣言したもうのを待っていた。

死1,17,彼らの眠れる塵は、骨と骨とが結合して腱と肉とで覆われ、その完全な形に回復されるはずであった。すなわち、彼らが完全喜びを受けるために、霊と肉体とが再び分かれることのないように結び合わされるのである。

死1,18,この大群衆が死の鎖から解き放たれる時を喜び、互に語り合いながら待っていると、神の御子が現われたもうた。そして忠実であった捕らわれ人に自由を宣言し、

死1,19,また永遠の福音、復活の教義、堕落からの人類の贖い、悔い改めを条件とする個人の罪の贖いについて彼らに教えを解かれた。

死1,20,しかし、御子は邪悪な者たちの所へは行かれなかった。罪深い者や、肉体を得ていた時に自らを汚して悔い改めなかった者には、御子の声は発せられなかった。

死1,21,古代の予言者たちの証と警告を受け入れなかった者たちは、御雄の栄光を見ることも、御子のみ顔を仰ぎ見ることもなかった。

死1,22,これらの者のいる所は闇に支配されていた。しかし、義人たちの間には平安があった。

死1,23,そして聖徒たちは、自分たちの贖いを喜び、ひざをかがめ、神の御子が死と地獄の鎖からの贖い主、解放者であることを告白した。

死1,24,彼らの顔は光輝、主おみ前より放たれる光が彼らの上にとどまった。そして彼らは主お聖きみ名を讃美した。

死1,25,私はその時不思議に思った。なぜなら、救い主はユダヤ人とイスラエル人の家の人々の間にあって約3年間導きと教えを施す業に携わり、彼らに永遠の福音を教え、悔い改めを叫ぶことに能力を尽くされた。

死1,26,主が力ある働きと奇跡を行い、大いなる権威と件王を以て真理を宣言されたにもかかわらず、主のみ声に聞き従い、主の来訪を喜び、主から救いを受けた者はほんの少数であることを私は知っていたからである。

死1,27,しかも、主が、死者に導きと教えを与えられたのは、十字架上に死と復活のわずかな時に限られていた。

死1,28,私は、神の御子は、昔ノアの時代に神が忍耐して待っておられたにもかかわらず従わらなかった、えも獄に捕らわれた霊たちのところへ行って宣べ伝えられた、と語ったペテロの言葉を思いめぐらした。主はこのわずかな時間内にこれらの霊たちに宣べ伝え、必要な業を

死1,28-1,ことがどうしてできたのだろうか。

死1,29,こうして不思議に思っていると、私の眼が開かれ、理解力が強められた。そして私は、主が真理を受け入れなかった邪悪な者、不従順な者たちの間へ自ら行って教えられたのではないことを知った。

死1,30,見よ。主は義人の中から軍勢を組織し、使者を任命して権威と権能とを与え、闇の中にいる者たち、さらにはすべての人の霊のもとに福音の光を携えて行くよう命じられた。このようにして死者が宣べ伝えられた。

死1,31,選ばれた使者は行って、主に受け入れられる日の繰ことを言明し、捕らわれの身にある者すなわち罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての者が自由を得ることを宣言した。

死1,32,このようにして、真理の知識がなく罪のあるまま死んだ者、予言者を拒み罪のうちに死んだ者に対して福音が宣べ伝えられた。

死1,33,これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しを受けるために身代りのバプテスマ、按手により授かる聖霊の賜について教えを受けた。

死1,34,またこのほかに、肉いおいては人間として裁きを受けるが、霊においては神に従って生きようになるための資格を得る上で知っておかねばならない福音のすべての原則が教えられた。

死1,35,このようにして福音が死者の間に知らされた。すなわち、小さき者も大いなる者も、正しからざる者も忠実なる者も、神の御子の十字架上での犠牲を透して贖われたという喜ばしいおとずれがもたらされた。

死1,36,こうして、贖い主が霊界での滞在期間を、この世において善げYSYAとして主を証した忠実な霊たちに教えを授け、備えをさせることに費やされたことが明らかになった。

死1,37,それは彼らを、反抗と罪のゆえに主御自身が行くことのできないすべての死者のもとに、贖いのおとずれを携えて行かせるためであり、僕の働きを通して彼らにも主のみ言葉を聞かせるためであった。

死1,38,この義人の大きな群に加わっていた大いなる力ある者たちの中に、すべての人の先祖、最も老いたる者である父祖アダムがいた。

死1,39,また、栄えある母イブが、この世において生ける真の神を礼拝した多くの忠実な娘たちと共にいた。

死1,40,最初の殉教者アベルも、さらにその弟で、力ある者のひとり、父アダムに生き写しのセツもいた。

死1,41,洪水の警告した、偉大な大祭司セム、忠実なる者の父アブラハム、イサク、ヤコブ、イスラエルの偉大な立法者モーセもいた。

死1,42,そして心の傷ついた者をいやし、捕らわれ人に自由を告げ、獄に捕らえられている者に解放を宣言するよう油注がれていた贖い主について予言したイザヤもそこにいた。

死1,43,さらに、死者の復活の時に肉体をまとして出できたり、生ける霊の結合体となる乾いた骨が大きな谷を埋め尽くしているのを示現で見たエゼキエル、

死1,44,末日聖徒イエス・キリスト教会の神の王国が建てられ、決して滅びることも他の民の手に渡されることもないことを予見し、予言したダニエル、

死1,45,変貌の山でモーセと共にいたエライヤスの姿もあった。

死1,46,エライジャが主の大いなる恐るべき日に先立って来ると証し、宣言したマラキもそこにいた。エライジャについてはモロナイも予言者ジョセフ・スミスに告げている。

死1,47,予言者エライジャ、父に与えられた約束を子らの心に植え付けるべく任じられていた。

死1,48,マラキが語ったこの言葉は、主の来る時に全地が呪いをもって撃たれ、ことごとく荒廃することのないように、時満ちたる神権時代に、主の神殿において死者の贖いと親子の結び固めのために大いなる業が行われることを予告している。

死1,49,これらすべての霊に加えて、ニーファイ人の間で神の御子の降臨を証した予言者たちを含む多くの者たちが、大きな群となって解放を待っていた。

死1,50,なぜならば、死者は肉と霊とが長い間分離している状態を捕らわれと考えていたからである。

死1,51,主はこれらのことを霊たちに教え、さらに御自身が死者の中から復活した後によみがえる力を彼らに授けられた。彼らが御父の王国に入り、そこで不死不滅と永遠の生命の冠を受けるためである。

死1,52,その後彼らは、主から約束されたように、各々の働きを続け、主を愛する者たちのために備えおかれた祝福にあずかる者となる。

死1,53,予言者ジョセフ・スミス、私の父ハイラム・スミス、ブリガム・ヤング、ジョン・テイラー、ウイルフォード・ウッドラフ、その他選ばれた霊たちも霊界にいた。彼らは偉大な末日の業の基を置く務めに携わるべく、時の満ちる時代までこの世に来るのをとどめおかれて

死1,54,神殿の建築と死者の贖いのためにそこで儀式を執行することも、偉大な末日の業の1部である。

死1,55,私は彼らが、神の教会において統治者となるように時の初めに選ばれた高貴にして偉大なる者たちの中にいるのを見た。

死1,56,彼らとその他多くの者たちは、生まれる前から霊界において基本敵な教えを受け、主の定められた時に出て行って人を救うために主のぶどう園で働く準備をしていた。

死1,57,私は、この神権時代の忠実な長老たちが、死者の霊が住む広大な世界において闇に包まれ罪のかせにつながれている者たちの間で悔い改めの福音と神の生みたまいし独り子の犠牲を通じてもたらされた贖いの福音を、この世を去った後も引き続き宣べ伝えているのを見た

死1,58,悔い改める死者は、神の宮居の儀式を受けることによって贖われるであろう。

死1,59,そして、自らの罪の代価を支払い、洗われて清くなった後に、各自の行いに応じて報いを受けるであろう。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。

死1,60,このようにして、死者の贖いに関する示現が私に与えられた。私はこれを証する。そして、私は主なる救い主イエス・キリストの恵みにより、この証が真実なものであることを知っている。まことにその通りである。アーメン。